

令和3年度 N I E活動実践計画

鹿児島市立谷山小学校

1 はじめに

本校は、平成30年度に、日本新聞協会からN I Eの実践校指定を受け、研究を始めたところである。校務分掌にも「N I E担当」が位置付けられ、年3回の部会を通して、本校のN I E活動の実践を広め、児童の学力向上につなげようとしている。

今年度は、N I E活動を継続して実践していくために、どのような活動をしていけばよいか、3年間の実践内容を見直していきたい。

2 実践内容

- (1) 学習指導要領に基づいた教科・領域での活用
- (2) はがき新聞の活用
- (3) N I Eタイムの設定（学期に1回）
- (4) N I Eコーナーの設置
- (5) 親子での取組（ファミリーフォーカス、よむのびコンクールへの取組）

3 実際

- (1) 学習指導要領に基づいた教科・領域での活用

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響で、新聞記者を招聘しての出前授業を行うことができなかった。そのため、本年度も新聞を活用しての授業実践のみ行った。

① 第4学年国語「新聞をつくろう」

実際の新聞の第一面を活用し、新聞の割り付けや見出し、新聞記事の構成、書く時のポイントを教科書の内容と関連付けながら学習した。見出しの効果やリード文のまとめ方など実際の新聞を参考にしながら、自分たちの新聞づくりに生かすことができた。また、記事の文章表現も意識して、記事を書くことができた。

② 第5学年国語「新聞を読もう」、社会

見出しやリード文、記事の内容や書かれ方について、実際の新聞を活用しながら授業を進めることで、児童の興味関心を高めることができた。また、単元の終わりには、自分で興味のある新聞記事を選び、分かったことや考えたことを伝え合う活動を行った。また、社会では、単元と関連する記事を用いて、全国と本県の産業についての比較を行った。

③ 第6学年各教科の発展的学習として

南日本新聞社のホームページにあるワークシートを活用して、各教科の単元における発展的活動として、単元の終わりや家庭学習で取り組ませた。全国的な記事や鹿児島県内の記事など、全国と郷土での似ていることや違いについてワークシートを読み取ることで考えることができた。また、年間を通して俳句に挑戦し、新聞社へ応募を行った。

(2) はがき新聞等の活用

第4学年以上に、はがき新聞を取り入れるようにした。限られた文字数でまとめるため、児童によって同じ単元でもまとめる観点やまとめかたが様々で、友達のはがき新聞を見て、次の単元でのまとめに生かしていた。また、ICTを活用することで、ロイロノートで作成した新聞を共有したり、ロイロノートで作成した新聞を学級新聞として掲示したりする活動も行った。



【写真 1, 2, 3 観点の異なるはがき新聞】

(3) N I Eタイムの設定

学期1回、朝の10分間をN I Eタイムとして設定した。各学年のN I E系の職員を中心に学年に応じて、様々な活動を行った。

第1学年…新聞記事からのひらがな、カタカナ探し。新聞を使った遊び。記事の写真を見て一言思ったことを書く。

第2学年…新聞記事からの漢字、名前探し。南日本新聞社のワークシートへの取り組み、言葉の意味調べ。

第3学年…子供たちの興味がありそうな記事を数点選び、その中から選択して、わかったことや考えたことを書く。分からない言葉の意味調べ。

第4学年…第2学年と同様、南日本新聞社のワークシートを活用した読み取りや言葉調べ。ファミリーフォーカス。

第5学年…南日本新聞社のワークシートの読み取り。その記事に対して分かったことや考えたことを書く。ファミリーフォーカス。

第6学年…南日本新聞社のワークシートの読み取り。その記事に対して分かったことや考えたことを書く。ファミリーフォーカス。

昨年度より活動時間が5分短くなったため、事前に準備を行い、子供たちの活動時間をできるだけ確保するようにした。



【写真 4, 5 ロイロノートを活用した新聞】



【写真 6, 7, 8 左から低（おもちゃ作り）中（言葉探し）高（ワークシート）学年の取り組み】

(4) N I Eコーナーの設置

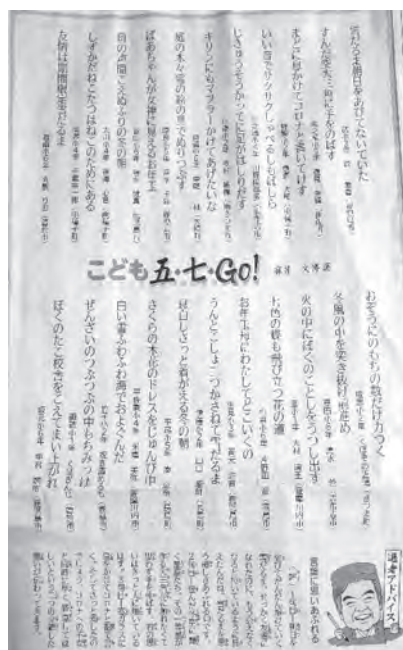
今年度は、ファミリーフォーカスの掲示、オセモコ通信の掲示、俳句の掲示を行った。特に4年生以上の子供たちが取り組んでいるファミリーフォーカスは校舎2か所に掲示した。N I Eコーナー以外では、学年に応じて新聞の第一面を掲示したり、子供たちが興味を持ちそうな記事を掲示したりするところもあった。



【写真9 ファミリーフォーカスの掲示】



【写真10, 11 オセモコ通信の掲示】



【写真13 俳句の掲示】



【写真12 気になる記事の掲示】

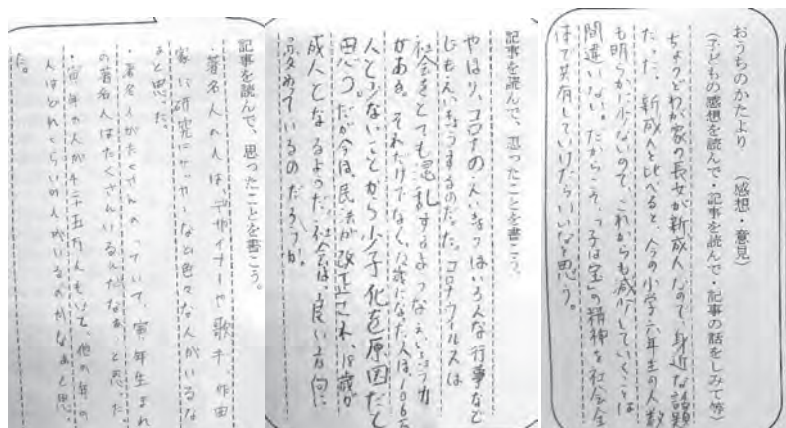
(5) 親子での取組 (ファミリーフォーカス、よむのびコンクール)

昨年度と同様に、中学年以上でファミリーフォーカスを実施した。実施回数は学期1回の計3回実施した。中学年は、教師側でいくつかの記事を選びその中から子供たちに選ばせ、高学年はN I Eタイムで読み取った記事をファミリーフォーカスとして取り組ませた。特に、高学年は事前にワークシートとして内容を読み取らせる活動を取り入れることで、ファミリーフォーカスでの分かったことや考えたことに各



【写真14 ファミリーフォーカス】

内容も具体的に書くことができた。また、よむのびコンクールへも取り組み、学校として多数応募することができた。



【写真15, 16, 17 同じ記事 (左) に対する子供と保護者のコメント】

4 成果と課題

(1) 成果

- 継続して実施できることを意識して取り組むことで、来年度、どのような取組を継続できるか見直すことができた。
- 学習内容や学級のことなどを新聞という形でアウトプットする力が学年に応じて身についてきた。

(2) 課題

- 今年度でN I E実践校から外れるため、次年度以降、新聞の準備が難しくなる。
- 上記につながるが職員を含め、各家庭の購読率が低いいため、新聞を読む習慣がつかない。
- 研究テーマなどに位置付け、意識させて取り組ませないと積極的な新聞活用までには至らなかった。

5 次年度に向けて

上記で述べたように、今年度でN I E実践校から外れることになる。N I E活動を積極的に行うためには、研究テーマ等への位置づけをすることだけでなく、家庭の新聞購読率が上がる必要があると感じた。ただ、新聞を読ませることは、長文を読む速さの向上、内容を読み取る力の向上につながることは、4年間の実践を通して強く感じたことである。ただ、新聞を読み準備することが負担にならないように、新聞社のワークシートも活用しながら、教師が気軽に取り組ませることができるようにしたい。そのために、今までの実践を整理し、子供たちの学力向上の一つの方法として活用することができるよう、引き継いでいきたい。



【写真18, 19 よむのびコンクール】

(2) N I E コーナー（新聞閲覧台・新聞の切り抜きの掲示）の設置

初年度5・6年生に設置した手作りの新聞閲覧台は、第二弾として2年度には4年生の2学級にも設置された。本年度も引き続き新聞閲覧台を設置し、児童の身近に新聞がある環境を整えた。また、昨年度同様図書室近くの廊下に司書教諭による「おすすめの記事」を掲示した。図書室にきた児童が足を止めて見る様子があった。

(3) 授業の実際

4年「新聞を書こう」(国語科)

新聞の作り方や読み方、要約の仕方などを南日本新聞の記者の方に教えていただいた。その後、実際に新聞を一部ずつ読み、学習したことを確かめたり深めたりした。

(4) はがき新聞の作成

昨年度同様新聞記事の内容をより深く理解するためにはがき新聞づくりを行った。はがき新聞づくりは、学習のまとめや、新聞を読んだ意見・感想を書くなど様々な場面で活用した。はがきサイズの新聞づくりなので、児童への負担も少なく、喜んで作る児童が多かった。新聞の構成を身に付けることにも役立てられた。本年度は4・5・6年生の学年掲示板で常設してはがき新聞を掲示し、継続した取組・掲示をすることができた。



【写真4 はがき新聞の掲示板】

(5) 新聞社への投稿

新聞により親しみをもちつために、南日本新聞の「若い目」欄への投稿をした。各学年で行事の感想文や良い日記など投稿を行った。学校全体で週末の宿題で作文の課題を出したり、どのように作文を書けば良いのかアドバイス用紙を配布したりした、掲載された際には本校の公式 Facebook でも紹介し、より多くの人に投稿を見てもらうことができた。本年度は4点掲載された（令和3年1月現在）。



【写真5 Facebook での紹介】

(6) 校内はがき新聞コンクールの実施

昨年度に引き続き、本年度も校内はがき新聞コンクールを実施した。昨年度は夏休みの思い出や自分で調べたことを書いている児童もいたので、本年度は「新聞を読んだ感想」ということを強調し、広報した。低・中・高ではがきのサイズや文字数も変えて、学年の発達段階に応じた新聞を作成した。低学年は保護者と一緒に取り組んだ様子が見られる作品が多く、保護者への啓発の一環にもなっている。

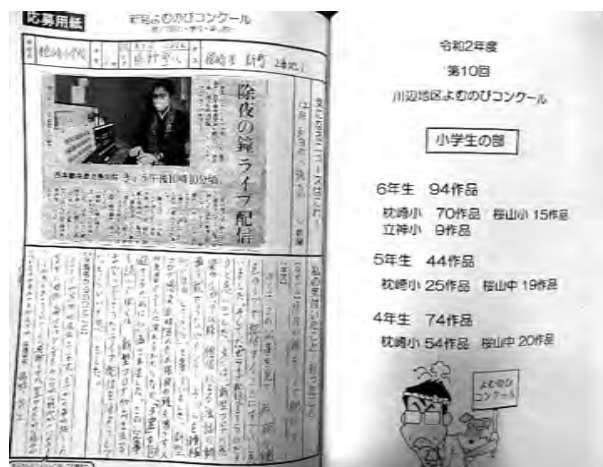


【写真6 低学年掲示板】

作品の中で優れたものには、「学校長賞」と南日本新聞社さんにも協力を頂き、「南日本新聞社賞」を本年度も設け、校内で表彰した。優れた作品は校内文化でも掲示し、子どもたちはもとより保護者や地域の方にも見ていただいた。その他の作品も本年度は学年の掲示板に掲示し、多くの児童に全員の作品を見てもらうことができた。

(7) よむのびコンクールへの参加

継続して参加しているよむのびコンクールに本年度も応募しようと、4年生以上は冬休みの課題として家庭で取り組めるよう広報している。昨年度も多くの児童が参加し、保護者にも「一緒に新聞を読むことが普段なかなかできないので、とても良い取組だった。」と好評だった。昨年度の作品集や夏季休業中の職員研修を参考に、子どもたちに読みやすい新聞記事を選ぶように指導した。



【写真7 昨年度よむのびコンクール作品集より】

(8) 職員研修の実施

昨年度コロナ禍のため実施できなかった職員研修を、本年度は夏の長期休業中に実施することができた。子どもたちに新聞を活用して指導する方法や子どもたちが引きつけられやすい紙面について南日本新聞社の記者の方に教えて頂いた。職員がこれまでに掲載された新聞記事も紹介していただき、とても盛り上がった。これまであまり新聞に興味が無かった職員も今後活用してみたいと話していた。



【写真8 職員研修の様子】

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ はがき新聞コンクールを開くことによって、下学年にも新聞を読む機会を設けることができた。
- ・ てきぱきプレゼンを行うことによって、社会で起きていることを話題に話をすることができた。
- ・ 昨年度はコロナ禍で実施できなかった南日本新聞社の方を招いての職員研修を、本年度は実施することができ、職員が新聞の読み方や活用について深く学べる機会となった。

(2) 課題

- ・ てきぱきプレゼンについて年度当初に職員全体に説明をする時間がとれなかったため、実際に取り組む際に進め方が分からず慌てることがあった。年度当初で共通理解を図りたい。
- ・ 校内はがき新聞コンクールに新聞を貼らせるようにすると、記事との関連が分かりやすくなると感じたので、来年度は改良して取り組みたい。
- ・ 継続した実施により、子どもたちにどのような変化があったのか、主観だけでなく数値などで表せる方法を考え、結果を考察していきたい。
- ・ 継続した実施により内容がマンネリ化しないようにしていきたい。
- ・ NIE 担当だけでなく、より全校体制で NIE 教育を進めていけるように、係として新聞投稿や NIE の広報などできることを広げていきたい。

令和3年度 N I E実践報告（実践3年目）

霧島市立青葉小学校

1 テーマ

読書（新聞）のよさを味わい，自分の世界を広げることができる児童の育成

2 目指す子どもの姿

- （１）低学年・・・新聞に興味をもち気付いたことを表現できる子ども
- （２）中学年・・・情報をもとに自分の考えをもち表現できる子ども
- （３）高学年・・・相手意識をもち自分の考えを表現できる子ども

3 実践内容

- （１）N I Eタイムの実施
- （２）N I Eコーナー(新聞閲覧)の活用
- （３）新聞を活用した授業等の実践

4 研究の実際

（１）N I Eタイムの実施

月に1回程度，朝の時間（8：30～8：45）にN I Eタイムを設けている。

新聞を活用した学習活動で，学年で統一した内容を実施している。以下主な取り組み。

【1年】

スポーツに関心が高い子供がいたりスポーツ少年団に入っている子供がいるので，大谷選手を取り上げた記事を教師のほうで読んだり解説したりした。

目を輝かせながら見たり聞いたりしていた。野球選手としての活躍もだが，積極的にゴミ拾いをするなどの人柄についても紹介した。

「すごい。」「ぼくもこんな選手になりたい。」などの感想を発表していた。

漢字にふりがながついているとはいえ，一年生なので大量の文字や文章を読み取ることが難しいことが多かった。そこで，イラストコーナーや写真の記事を紹介した。喜んで見ている様子があった。





二人組で同じ新聞記事を見て、交流をした。
現在、家で新聞を取っている家庭も減っている
状況もあり、実際、新聞を手に取り、友達と一
緒に記事を読んで語り合うという活動は、楽し
く新鮮だったようだ。

「こども新聞」の中に低学年コーナーみたいな
ページがあるともっといいなあと思った。

【2年】

「若い目」欄から子供たちと同じ2年生の投稿をピックアップして読み、その感想を書かせた。また、小学生新聞を読み、みんなに教えたい記事や気になる記事等を発表したりした。



【3年】

「若い目」のコーナーから3年生の投稿をピックアップして読みその感想を書いたり、そのとき話題になっているニュース（大谷翔平選手のメジャーリーグでの活躍）を取り上げた記事お読み、それぞれ感想を書いたりした。新聞記事のつくり（見出し・リード文・本文・写真・資料など）がどのようなになっているのかを学んだ。新聞＝文字が多くて読むのが難しいというイメージを持つ子どもが多かったが、身近な題材が取り上げられていることに気づき、興味を持って新聞に向かい合う姿がみられるようになった。



【4年】主に「みなみ edu」のワークシートを活用し、4年生向けの話題をもとに記事を読み、何が書かれているか理解し、問題に答える活動に取り組んだ。難しい言葉などは辞書で意味を調べながら読んでいた。



【5年】

南日本新聞ホームページ「みなみ edu」のワークシートに取り組ませた。社会科の学んだ食料自給率の課題とポテトショックの新聞記事に関連させ、これからの食料生産についての自分の考えを根拠を明確にして書く活動を通して、論理的表現力の向上につながった。



【6年生】南日本新聞社のホームページより教科の学習内容や生活の課題に応じ内容のワークシートに取り組みさせた。



(2) N I E コーナー(新聞閲覧)の活用

一昨年度、おやじの会の協力により新聞閲覧台を制作してもらった。子どもの目線の高さに合っており、閲覧しやすくなっている。従来は、畳のコーナーに長机を置き、その上に新聞を置いていたが、閲覧台は子どもたちが気軽に新聞を読むことができていた。そのため、閲覧する子どもが増加している。

毎朝配達された新聞を、生活・ボランティア委員会の子どもたちが校内にある4つの新聞閲覧台に広げて展示している。



(3) 新聞を活用した授業等の実践

社会科や理科の教材と関連した記事を資料として活用したり、国語科の作文指導の際にテーマを考える材料として新聞記事を使って指導したりと、授業の資料としての活用にも取り組んだ。また家庭学習の一つとして、3年生では新聞記事の試写を取り入れたり、新聞の感想を書かせるなどの課題を与えたりしている。6年生では夏休みや冬休みの課題として新聞づくりに取り組ませた。見出しを工夫したり、レイアウトを考えたりと新聞の記事を参考に意欲的に取り組んでいた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 環境を整えたり、新聞を活用した学習活動を設定したりすることにより、全体的に新聞に親しむ機会が増えた。また言語に関する知識が増えた。
- ・ 高学年では、新聞の記事をもとに自分なりの考えを文章に書く活動を通して三角ロジックの考え方が少しずつ身についてきている。

(2) 課題

- ・ ネットが普及し新聞を購読していない家庭も多く、新聞に親しむ機会が多い子どもと少ない子どもの個人差が大きい。
- ・ 発達段階上、新聞に書いてある内容を正確に読み取ることが難しい。
- ・ 教科等の特色をふまえた上で、新聞活用の日常化を図っていきたい。

鹿屋市立笠野原小学校 令和3年度のNIE取組について

1 本校 NIE 教育の目標

「新聞を読み取り、情報を生かす力・社会とつながる力を育てる」

2 各学年の努力点

低学年	中学年	高学年
○ 新聞がどのような紙面になっているのかを見る。	○ 調べ学習や文章に表すための資料として新聞を使うことで、表現力を育てる。	○ 記事の読み比べや友達との意見交流を通して、思考力・判断力を身に付ける。
○ 各種活動において子ども新聞の写真や図を使うことで新聞に親しむ。	○ 教科で調べたことを新聞形式にまとめることにより構成力を身に付ける。	○ 新聞をもとにした発表資料を作り、構成力・判断力を身に付ける。

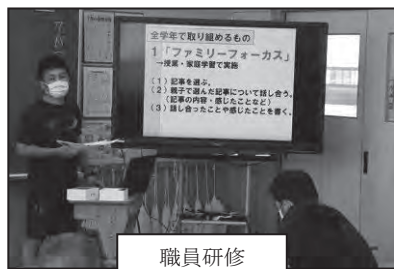
3 学校全体での取組

(1) 年度初めの共通理解・職員研修

年度初めに教育課程をもとに全体計画を確認した。担当がこれまでの実践例を紹介し、各学年で実践する内容を設定した。夏季休業の職員研修で、NIEの目的や実践の進め方を確認した。

(2) NIE コーナーの設置

教室前ろうか掲示板と校長室前掲示板と図書室に設置。「オセモコ」「紹介記事」「新聞に掲載された児童の作品」等を掲示した。休み時間や給食の片付けの時などに、児童が友達と一緒に記事を読んでいる。



職員研修



実践事例の確認



校長室・教室前の掲示



(3) 委員会活動での取組

ア 放送委員会

南日本新聞の記事や「オセモコ」の中から自分が興味をもった記事を選び、給食時間の校内放送で記事の音読と感想の発表を行った。

イ 給食委員会

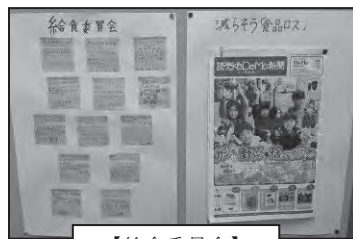
食に関する記事を読んで啓発資料を作成し、給食室前に掲示した。

ウ 広報委員会

ファミリーフォーカスを行い、校長室前 NIE コーナーに掲示した。



【放送委員会】新聞記事選び⇒給食時間の放送



【給食委員会】食に関する記事紹介



【広報委員会】ファミリーフォーカス

(4) ファミリーフォーカス

週末の課題等でファミリーフォーカスを実施した。書いたものは廊下に掲示して、クラスの友達がいつでも見ることができるようにした。

(5) 担任による新聞記事紹介

定期購読している新聞を計画的に各学級に配布し、担任が朝の会等で記事紹介を行った。

(6) コンクールへの参加

4年生以上は、夏休みに「よむのびコンクール」に取り組み、4年生から6年生までで合計160点を出品した。今年度は肝属地区学校賞を受賞した。

4 各学年の授業実践

年度初めに全職員で実践例を確認し、各学年において授業を通したN I E実践に取り組んだ。

【5年】	
教科	実践内容
総合	「今日のヒーロー」 ・ 新聞からヒーローを見つけ、記事の内容や感想を書かせる。
国語	「和語・漢語・外来語」 ・ 新聞の中から「和語・漢語・外来語」を見つけ、どのような状況で使われているかを考える。
国語	同じ日の各社の新聞記事を読み比べる。 見出しを隠した新聞記事を読み、ふざかしい見出しを考える。
【6年】	
教科	実践内容
朝の会 帰りの会	・ 気になる記事を選び、日直がスピーチする。 ・ 新聞を読んでクイズを作り、日直が1日3問出題する。
国語	「自分の考えを明確に伝えよう」 ・ 「ひろば欄」の投稿作品を用いて、事実と意見の分量の違い、文末表現に気付かせる。
国語	「熟語の成り立ち」 ・ 新聞の中で使われている熟語を見つける。
国語	「学級討論会をしよう」 ・ 新聞から議題を決めて、学級討論会をする。
体育	「体の使い方を知ろう」 ・ スポーツ選手の写真を見て、正しい体の使い方を見分ける。 (野球選手が投げるところ、走り幅跳び、ハードルなど)

〈各学年担任に配布した実践例〉(5・6年)

授業実践 1年 国語科

- ☐ 単元 かたかなを かこう
- ☐ 目標 片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。
- ☐ 事前 児童が興味をもつような片仮名の言葉が使っている新聞を紹介し、意欲をもたせる。
- ☐ 本時の流れ(2/2時間目)
 - (1) 新聞記事を紹介する。
 - (2) 片仮名で書かれた言葉を探して、ワークシートに書き出す。
 - (3) 見つけた言葉について、友達と交流する。
 - (4) 見つけた言葉を発表する。
 - (5) 感想を発表する。
- ☐ 事後 身近な物(新聞を含む)から片仮名を探し、読んだり書いたりする。
- ☐ 成果と課題
 - 新聞に興味を示していた。
 - 意欲的に、かつ、集中して取り組んでいた。
 - たくさんの片仮名の言葉を見つけ、語彙を増やすことができた。
 - ▲ 紙面の読み方に慣れていない児童が多く、言葉の区切りが分からないようだった。



授業実践 2年 生活科

- ☐ 単元 図書館をたんけんしよう
- ☐ 目標 地域の公共施設である図書館を見学したり、調べたりすることを通して、町の多くの人が利用することや、それを支える人たちがいることに気付き、自分たちも利用してみたいという意欲を高められるようにする。
- ☐ 事前 秋の校外学習で、図書館に行くことを知らせ、意欲をもたせる。
- ☐ 学習の流れ
 - (1) 図書館で調べたいことや質問を考える。
 - (2) 実際に、図書館で調べたりインタビューしたりする。
 - (3) 新聞を見ながら、レイアウトなど新聞の書き方を話し合う。
 - (4) 図書館探検をして、分かったことや気付いたことを、新聞にまとめる。
 - (5) 感想を書く。
 - (6) グループで発表し合ったり、保護者に読んでもらったりする。
- ☐ 事後 ふだんから新聞を見たり読んだりすることで、新聞作りについても、さらに興味を深めていく。
- ☐ 成果と課題
 - 新聞にまとめる活動を楽しみ、意欲的に活動していた。
 - 友達や保護者に読んでもらうことで、新聞に関心をもつことができた。
 - ▲ 新聞作りは初めての取り組みで、分かりやすくまとめることが難しく、とまどった子どもたちもいた。2年生でも何か継続的に実践できることを、保護者と連携して取り組んでいけるといい。

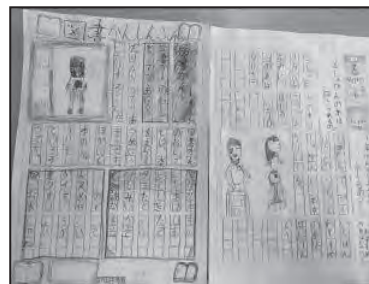




1年 片仮名探し



2年 図書館新聞づくり



授業実践 3年 国語科

- ☐ 単元 ポスターを読もう
- ☐ 目標
 - ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
 - ・比較や分類のしかたを理解し使うことができる。
- ☐ 事前 子ども新聞を読む。
- ☐ 本時の流れ（2／2時間目）
 - (1) 2枚のポスターを比べ、どちらのポスターの方がお祭りに行きたくなるか考える。
 - (2) 本時のめあてを確認する。
 - (3) どちらのポスターの方がお祭りに行きたくなるか、理由を友達と話す。
 - (4) 2枚のポスターを比べて、気づいたことを整理する。
 - (5) ポスターに違いが生まれる理由について話し合う。
 - (6) 単元の学習を振り返る。
- ☐ 事後 学んだことを総合的な学習の時間の新聞作りに活用する。
- ☐ 成果と課題
 - 2つのねらいの違うポスターを比較することで、ポスターなどを作成するときの言葉や文字、イラストの配置など様々な工夫の仕方を学び、新聞作りなどに生かした。
 - ▲ 目的や対象によって工夫することが難しい児童がいた。

授業実践 4年 国語科

- ☐ 単元 「新聞を作ろう」（アンケート調査のしかた）
- ☐ 目標 相手や目的を意識しながら書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりしながら、タブレットを使って新聞を作ることができる。
- ☐ 事前 実際の新聞を使い、「見出し」「リード文」などについて学習する。
本やインターネットなどを使い、テーマについて調べる。
タブレットを使って、伝えたいことについて学級の友達にアンケートを取る。
- ☐ 本時の流れ（8・9／12時間目）
 - (1) 実際の新聞記事を参考にして、記事の書き方を考える。
 - (2) 何を言葉で伝え、何を写真や図で伝えるのかを考える。
 - (3) 自分の担当箇所の新聞記事を書く。
 - (4) 伝えたい内容に合った見出しをつける。
- ☐ 事後 作った新聞を、グループや学級全体で共有する。
伝えたいことを新聞にして書く方法を振り返る。
- ☐ 成果と課題
 - 実際の新聞を使って事前に学習することにより、新聞作りの学習につながれた。
 - タブレットを使うことにより、個人の記事を班の代表児童のタブレットに集めて新聞を作ることができた。レイアウトも自由に変えることができ、各班の工夫が見られた。
 - ▲ 構成や記事の内容を考える段階では、思考を整理するために、紙と鉛筆を効果的に使う場を設定する必要がある。
 - ▲ 考えたことを言語化しながらスムーズにタイピングできるように、継続的にタイピングの練習に取り組ませる必要がある。



4年
グループで
新聞づくり



見出し・リード文の確認



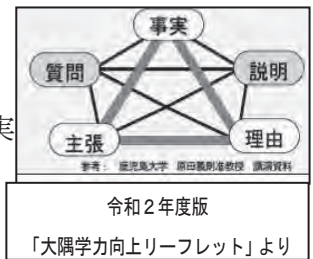
思考ツールを使った編集会議



校長先生に取材

授業実践 5年 国語科

- 単元 読み手が納得する意見文を書こう（教材：「あなたはこう考える」）
- 目標 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
- 事前 児童が興味を持つような新聞の投書を紹介し、題材を決める。
- 本時の流れ（2／6時間目）
 - (1) 作例を読み、書き表し方の工夫を見つける。
 - (2) 全体で共有して、意見文を書くときの観点をまとめる。
 - (3) 題材として選んだ新聞投書を読み、自分の主張の根拠となる事実
に印をつける。
 - (4) 主張、事実、理由を思考図（ペンタゴンロジック）にまとめる。
 - (5) まとめた思考図を友達と確認し合う。
 - (6) まとめ、振り返り
- 事後 主張の根拠となる理由について質問したり、質問に対する説明を加えたりする。
- 成果と課題
 - 新聞の投書について時間をかけて読ませたことで、新聞に対する興味・関心を高めることができた。
 - 複数の投書を提示したことで、自分の考えに合う題材を選ぶことができた。
 - ▲ 選ぶ題材に偏りが出たので、複数の新聞から児童自らが選ぶ流れにしてもよかった。



授業実践 6年 国語科

- 単元 日本文化を発信しよう
- 目標 新聞の見出し、小見出し、リード文、割り付けを参考にして、パンフレットを作る。
- 事前 集めた情報を整理して、パンフレットの構成を決め、ページを書く分担を決める。
- 本時の流れ（5／7時間目）
 - (1) 新聞を読んで、見出し、小見出し、リード文はどこにあたるかを確認する。
 - (2) 最も伝えたいことは何かを明確にし、絵や写真とのバランスを考えて割り付けを工夫したり、読者を意識した見出しや小見出し、リード文などを書いたりする。
 - (3) 教科書の文章構成の例を参考にして、下書きをする。
- 事後 班ごとに作ったパンフレットを読み合い、工夫が見られた点など感想を交流し合う。
- 成果と課題
 - 新聞を活用したことでイメージが湧き、割り付けをしたり、見出しや小見出し、リード文などを書いたりすることができた。
 - ▲ 新聞を活用したことでイメージはしやすかったが、割り付けを工夫したり、読者を意識した見出しや小見出し、リード文などを書いたりすることには個人差があった。

◎ 5・6年生は、家庭学習で定期的に新聞ワークシートにも取り組んでいる。

5・6年
ファミリーフォーカス
意見文



主張 → 事実 → 理由

5 成果と課題

(1) 成果

- ア 職員研修を行うことにより、NIEの概要、各学年の実践例などを確認したうえで、年間を通した取組を実施できた。
- イ 学年1つ以上の授業実践に取り組み、職員間で共有することにより、本校における系統性をもった実践事例を確認できた。
- ウ 様々な委員会活動において、目的や時期に合わせた新聞活用ができた。

(2) 課題

- ア 実践事例を来年度以降も引き継げるように、教育課程に取組内容を明記する。また、教科部会で、年度初めの取組方法の確認と学期末の取組状況の確認を行う。
- イ 教児ともに定期的に新聞にふれることができるように、全校でファミリーフォーカスや新聞音読などに取り組む時期を設定する。

令和3年度 NIE 実践報告

いちき串木野市立荒川小学校

1 はじめに

本校は、いちき串木野市北西部に位置し、3学級全児童25名の小規模校である。校内研修テーマ国語科「自分の考えを適切に表現（記述）できる子どもの育成」を進めるにあたり、新聞を学習に活用することが学力向上に有効であると考え、NIEの取組を行った。実践1年目の今年度は、新聞を購読している家庭が少なくなっている中、日常的に新聞にふれる機会を増やし新聞に慣れ親しむことを目標に、新聞を活用した様々な取組を行うことができた。

2 本校NIE教育の目標

【新聞を読むことに慣れ親しみ、「書く」活動に活かす】

低学年・・・新聞の写真や文字に興味をもち、新聞に親しむことができる。

中学年・・・新聞に対する興味関心を高め、新聞に親しむことができる。

新聞記事を読み、思いや考えを簡単な文章に書くことができる。

高学年・・・興味関心のある記事を選択し、記事に対する思いや考えを書くことができる。

各教科の学習内容を新聞形式にまとめることができる。

3 具体的な実践内容

- (1) NIEタイム（チャレンジタイム）の実施・・・全学年
- (2) NIEコーナーの設置・・・全学年
- (3) 一分間スピーチ・・・高学年
- (4) 各教科での新聞づくり・・・全学年
- (5) 南日本新聞への投稿・・・全学年

4 取組の実際

(1) NIEタイム（チャレンジタイム）の実施

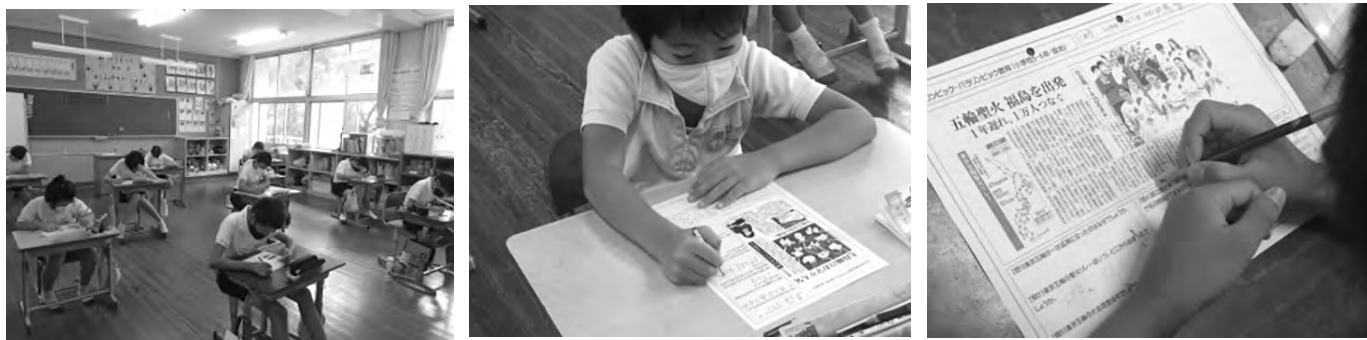
毎月1回、土曜授業のチャレンジタイム（8：25～8：45）の時間をNIEタイムとして設定し全学年取り組んだ。

低学年・・・子ども新聞を自由に読み、興味をもった写真や記事についてその理由を発表する活動

記事を読んで思ったことや考えたことを友だちに紹介している様子。



中・高学年・・・南日本新聞社のN I Eのページに掲載されているワークシートを活用し読み取る力を高める活動



共通の記事を読み、課題に答える様子。解答後は、記事に対する感想の交流も行った。

(2) N I Eコーナーの設置

掲示版スペースに、「新聞コーナー」を作り、年間を通して児童の作品を掲示した。また、N I Eの取組により配達していただく『子ども新聞』は、高学年→中学年→低学年と回覧したのち、図書室のN I Eコーナーへストックし継続して閲覧できるようにしている。



夏休みの思い出を新聞形式にまとめた作品の掲示（左）図書室の新聞コーナー（中）
新聞記事に対する感想の掲示（右）

(3) 一分間スピーチ

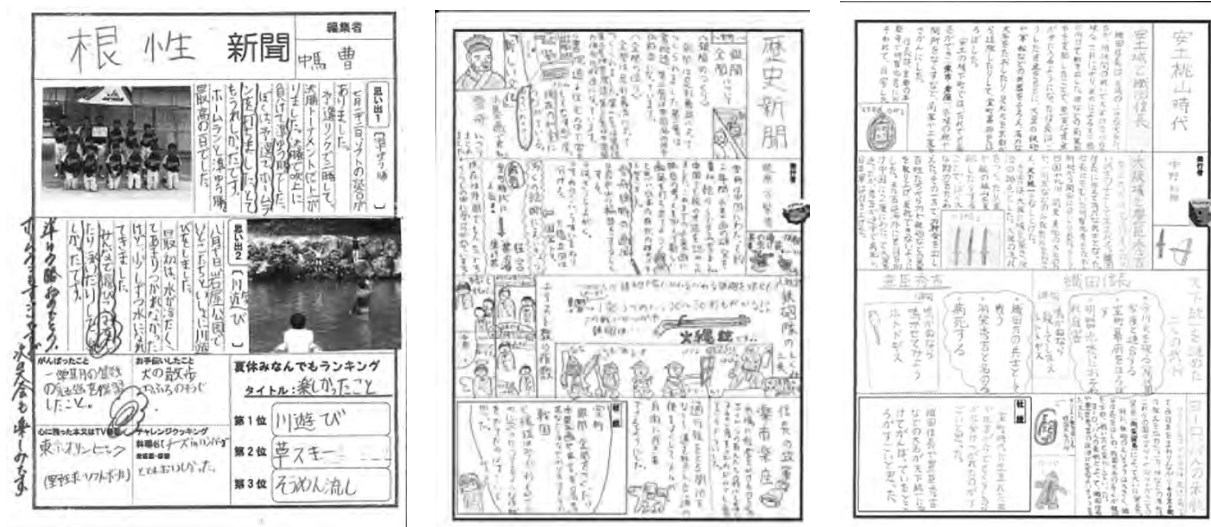
高学年は、次の日の日直が「子ども新聞」を持ち帰り、選んだ記事に対する思いや考えを文章にまとめる活動を継続して行った。その記事を紹介するスピーチを帰りの会の1分間スピーチで学級の友だちに伝えた。

日直が書いてきた文章は、担任がコメントを添えN I Eコーナーに掲示した。



(4) 各教科での新聞づくり

夏休みや冬休みの思い出、社会の学習などを中心に新聞形式にまとめる活動を行った。



(5) 南日本新聞への投稿

南日本新聞『若い目』への一人一投稿を目標に、日記や行事の感想、夏休みの作文等を基に投稿を行った。数名の児童が掲載されている。今年度は、高学年を中心に荒川小で伝統に行っている「太鼓」の取組について取材し、「ふるさと発見隊」の記事作成も行った。

また、南日本新聞への「よむのびコンクール」には、4年生以上の全員応募を行うことができた。



南日本新聞に掲載された児童の作品や学校の様子は、校内掲示板への掲示を行っている。

【ふるさと発見隊】

【校内掲示板】



(6) 職員研修の実施

NIEに取り組むにあたり、1学期の校内研修で南日本新聞社より講師を招いて研修を行った。NIEの実践事例や取組による成果等を全職員で共通理解することができた。

5 成果と課題

成果

- ・ 自分で記事を選び読めるようになってきている。読んだ記事を自分の言葉で発表できるようになってきている。(低学年)
- ・ 新聞記事が身近に感じられるようになった。政治・環境・スポーツ等内容が幅広いので子どもたちの視野が広がったように感じる。(中学年)
- ・ 新聞記事を用いたワークシートに取り組むことで、読解力・語彙力を高めることができた。(中・高学年)
- ・ 継続して新聞を読む機会を設けることで、多様な記事の中から興味をもったものを選択し読み進めることができるようになってきている。(高学年)
- ・ 記事に対する思いや考えを簡潔に文章に書くことができるようになってきた。また、学習したことや夏休み・冬休みの出来事を新聞形式に整理してまとめることに慣れてきた。
(高学年)

課題

- ・ 読む力に個人差が大きい。まずは、文章を読む力をつけることが必要である。読む力がついていなければ、子ども新聞を読んで内容を理解することは難しい。(低学年)
- ・ 活字が小さいので読むことに抵抗を感じる子どももいる。発達段階に応じた効果的な活用方法を考えていきたい。(中学年)
- ・ ワークシートの取組では読み取る時間に個人差がみられる。隙間時間を使って新聞を読む時間を確保したい。(高学年)
- ・ 「若い目」への投稿は、全員行うことができなかった。年間を通して計画的な投稿が必要である。(全学年)
- ・ 「子ども新聞」の活用方法の検討・見直し(全学年)
- ・ 新聞を定期購入している家庭が少ない。校内で新聞をもっと手にとりやすいような環境作りが必要である。(全学年)

6 来年度に向けて

今年度、全校での取組は、主に月1回のチャレンジタイムの時間を中心に行った。その他の取組は担任裁量であったため、学級間での情報交換を行いながら進めていった。2年目に向け、今年度の取組を整理し内容を検討・見直しを行っていききたい。

また、今年度の活動を活かし、より新聞に慣れ親しむことができるように、児童が新聞に触れる時間を増やしていきたい。

令和3年度 N I E 教育実践報告

奄美市立名瀬中学校

1 はじめに

本校は、平成30年度よりN I E教育の実践校に指定され、今年で4年目を迎える。毎年、職員の異動によりメンバーが入れ替わる中で、共通理解を図り継続した取り組みを行っている。

主に国語科を中心として、授業や土曜授業の朝の時間に新聞記事を活用した取り組みを行ってきた。「新聞記事を活用した活動を通して、言葉への関心をもち、豊かな表現力を養い、思考力をさらに深めていく」ことを目標に掲げ全校体制で取り組んでいる。

土曜授業の朝の8:15～8:35までの20分間（通常は朝読書や朝自習の時間）を「名中（なちゅう）タイム」と位置づけ、月1回、新聞記事をテーマに、生徒一人ひとりが自分の考えをまとめ、それを読み合い互いに感想やコメントを記入している。さらに担任や副担任が一人一人の文章にコメントを入れるなどして、生徒一人一人の思考力や表現力の向上を図っている。

そこで、実践校としての4年間の歩みと、今年度の実践の報告をすることによって、今後の新聞活用の実践や授業での効果的な活用につなげていきたいと考える。

2 4年間の歩み

平成30年度N I E 教育実践1年目	令和元年度N I E 教 育実践2年目	令和2年度N I E 教 育実践3年目	令和3年度N I E 教 育実践4年目
★『国語科における 新聞活用の授業実践』 ★『新聞閲覧コーナ ーの設置』・『新聞ク イズコーナー』の設 置』（図書室）			
	★『名中タイム』 土曜授業 8:15～8:35		
		★「よむのび教室」 実施。（7月）	
		★『鹿児島学習定着 度調査』の分析によ る「読む」「書く」 の学力向上の成果報 告	
★奄美新聞・南海日日新聞（新聞作文投稿） 奄美市内の小中学校 年1回作文を投稿する。（2人×2新聞社）			

「よむのび教室」より（R2.7月実施）



3 令和3年度の取り組みについて

担当職員の異動により、昨年度までの資料をもとに、これまでの取り組みを引き継ぐ形で新聞活用を進めた。「名中タイム」では、主に、南日本新聞の「オセモコ」を活用させていただいた。なぜなら、すべての記事の漢字にルビが振ってあり、漢字を読むことの苦手な生徒にとっても容易に新聞を読むことができるからである。時には、担任に音読してもらい、すべての生徒が記事の内容を把握できるようにした。コロナ禍により、実施できない日もあったが、土曜授業の朝の「名中タイム」は、新聞によって得る情報に親しむ良い機会となっている。

(1) 期日と記事内容

期 日	内 容
5月8日	○ 2021年4/14日付けの南日本新聞：「オセモコ SDGs の17項目のうち、興味のあるものは何か」のアンケート結果をもとに、自分の興味のあるものについて考えて意見を160字以上200字以内で書く。
6月12日	○ 2021年5/11付けの毎日新聞と南海日日新聞：「奄美世界自然遺産登録に向けて」をテーマに4つの観点（①新聞の見出し②写真③記事の共通点と相違点④全体的なこと）をもとに2つの新聞の読み比べを実施した。
9月25日	○ 2021年8/4付けの南日本新聞：「オセモコ青春空想科学 わたしの勉強法」を読んだ感想や自分の勉強法として実践していることを160字以上200字以内で書く。
10月9日	○ 南日本新聞「みなみEdu」の「コラムを読み解く」（中学・国語）を配布して、「南風録」のようなコラムをどのように読み解いていくかを理解する。
11月13日	○ 2021年11/4付けの南日本新聞：「軽石漂着」についての意見を、身近な環境問題と捉え160字以上200字以内でまとめる。（テレビやネットで話題になっている旬の話題を取り上げた。）

(2) 使用した記事



(3) 生徒作品

★「オセモコ SDGs の 17 項目のうち、興味のあるものは何か」

5月 8日(土) 本題

★今月の名中タイムは「オセモコ SDGs の 17 項目のうち、興味のあるものは何か」

1. 興味のある SDGs を選ぼう
2. 選んだ SDGs の内容を調べよう
3. 調べた内容を自分の言葉でまとめよう
4. まとめた内容を友達や先生に見せよう
5. 感想や意見を交換しよう

令和 3 年 5 月 24 日(水)
南日本新聞より

「オセモコ」記入欄
「公認」は、公認の内容でも構いません。
「非公認」は、非公認の内容でも構いません。

★「オセモコ青春空想科学 わたしの勉強法」

9月 25日(土) 本題

★今月の名中タイムは「オセモコ青春空想科学 わたしの勉強法」

1. 勉強法について、自分の考えをまとめよう
2. まとめた内容を友達や先生に見せよう
3. 感想や意見を交換しよう

令和 3 年 9 月 4 日
南日本新聞オセモコ
青春空想科学より

「オセモコ」記入欄
「公認」は、公認の内容でも構いません。
「非公認」は、非公認の内容でも構いません。

★「奄美世界自然遺産登録に向けて」新聞読み比べ

6月 12日(土) 本題

★今月の名中タイムは「奄美世界自然遺産登録に向けて」

1. 奄美世界自然遺産登録に向けて、新聞を読み比べてみよう
2. 読み比べのポイントをまとめよう
3. まとめた内容を友達や先生に見せよう
4. 感想や意見を交換しよう

令和 3 年 5 月 11 日
南日本新聞/毎日新聞より

「オセモコ」記入欄
「公認」は、公認の内容でも構いません。
「非公認」は、非公認の内容でも構いません。

6月 12日(土) 本題

★今月の名中タイムは「奄美世界自然遺産登録に向けて」

1. 奄美世界自然遺産登録に向けて、新聞を読み比べてみよう
2. 読み比べのポイントをまとめよう
3. まとめた内容を友達や先生に見せよう
4. 感想や意見を交換しよう

令和 3 年 5 月 11 日
南日本新聞/毎日新聞より

「オセモコ」記入欄
「公認」は、公認の内容でも構いません。
「非公認」は、非公認の内容でも構いません。

★「軽石漂着問題」

・この話題については、奄美大島の海岸に軽石が漂着していることから身近な問題として捉え、今後自分たちにできることはないかについて考えたものが多かった。

11月 13日(土) 本題

★今月の名中タイムは「奄美世界自然遺産登録に向けて」

1. 奄美世界自然遺産登録に向けて、新聞を読み比べてみよう
2. 読み比べのポイントをまとめよう
3. まとめた内容を友達や先生に見せよう
4. 感想や意見を交換しよう

令和 3 年 11 月 13 日
南日本新聞/毎日新聞より

「オセモコ」記入欄
「公認」は、公認の内容でも構いません。
「非公認」は、非公認の内容でも構いません。

※記事については、主に旬の話題を取り上げるように心がけた。授業においては、各自で決めたテーマをもとに、新聞内で共通する記事を集めて意見を書いたり、討論したりした。

4 成果と課題

(1) 研究の成果

- ① N I E 実践校となったことをきっかけに，地元の新聞以外の新聞に親しむ機会をもつことができ，地元新聞と地方新聞，さらに中央新聞並びに英字新聞などの魅力を知ることができた。
- ② 同じ話題でも各新聞社の取り上げ方や記事の大きさ等に違いがあることがわかり，各新聞社の特色について知ることができた。新聞の読み比べなども行い，「読む」楽しさを感じることができた。
- ③ 「新聞閲覧コーナー」の設置により，新聞を自宅で読まない生徒にも，新聞を読む機会が与えられ，新聞に触れる機会を作ることができた。
- ④ 国語科の授業においては，「よむのび教室」を参考にして新聞をテーマごとにスクラップしたり，記事の比較をしたり，記事について対話したりすることによって，表現力の向上につながった。
- ⑤ 月1回の「名中タイム」の時間が習慣化され，「書く」ことに対して苦手意識がなくなり，自分の意見や感想を積極的に書く生徒が増えた。
- ⑥ 学級新聞作成（文化部の取り組み：年2回）の指針となり，記事の見出しや内容などを工夫するようになった。

(2) 今後の課題

- ① 今後も，国語に限らず，さまざまな教科で新聞記事を効果的に取り上げ，生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげていく機会となるよう「N I E 教育」の推進に努めていきたい。
- ② メディアやネットによる情報があふれている中，自ら新聞による情報をどのように活用していくかを考えたり，新聞という形で表現したりする力を身につけさせたい。そのためには，身近な内容から国際的な内容まで幅広く捉えさえる機会をもつことが大切である。
- ③ N I E 実践校としての活動は終わるが，都市部から離れた離島だからこそ世の中の出来事に関心をもち，思考する活動を続けていきたい。

令和3年度 N I E実践報告書

薩摩川内市立平成中学校
国語科教諭 宮内 弘毅

1 はじめに

N I E実践校として2年目を迎え、昨年度に続き担当者を務めた私は、N I Eにどのように取り組むかを考えた。昨年度は初年度であったため、中学3年生を中心にN I E活動を進めてきたが、今年度は全学年での取組に挑戦したいと考え、他の先生方からの指導・助言等をいただきながら進めてきた。

世界各国がコロナ渦で混乱している中、新たな脅威である「オミクロン株」の感染拡大が止まらず、日本でも爆発的な感染の広がりをみせている。私たち人類は人間の脅威となる「ウイルス」に対抗すべく、全世界へ目を向けなければならなくなった。そのような中、日本国民の大多数がスマホを自由に扱える時代にもなり、情報化社会が加速している。それに伴い、世界各国の情勢や多様な考え方やものの見方を知ることでもでき、一昔前と比較しても安易に情報を得られる環境になってきた。世界各国のコロナ情報も然りである。

一方で、日本の教育界に目を向けると、学習指導要領の改訂により、様々な力の育成が謳われ、多様な変化に富む生活の中で、自分を見失わず、確かな一歩を歩むことができる人間を育てていくことが、私たち教師に求められている。まさに日本の未来を担う若者の能力の育成が問われる時代を迎えていると言えるであろう。

2 活動設定の理由

学習指導要領が改訂されたことにより、「主体的・対話的で深い学び」の充実が求められている時代を迎えている。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学校では休校が相次ぎ、学力低下が囁かれている。学校へ通えない生徒の学びを少しでも保障するために「G I G A スクール構想」が進み、タブレットを1人1台所有する時代になっている。いかなる場合にあってでも児童生徒が何不自由なく安心して学べる環境を整備しようと、I C T活用の重要性が一段と加速することとなったのだ。

一方で、タブレットを重視した授業に拘りすぎるために、児童生徒の書く機会が減少し、学力の低下につながるのではないかと懸念もある。そのため、I C Tを有効に活用しながらも、従来の「読み・書き」の重要性を説き、この両輪で学力向上を目指すべきであると考え。さらに、将来を自らの力で生き抜くためにも、N I Eを通して学んだ力が重要になってくると考えられる。多くの学者が紹介し、新聞等を含めたマスコミも報じているが、日頃から新聞を読む生徒ほど学力が高く、読解力も高いことが証明されている。新聞の構成に関心をもち、時事問題に興味をもつことで、物事を多面的・多角的に捉えることができるようになるのではなかろうか。

鹿児島県は購買量、購読量がともに全国では下位にあるというデータがある。つまり、各家庭において本来手にしてほしい新聞を目にする機会が少ないということである。新聞には日本中の出来事はもちろん、世界情勢やスポーツ、地域の情報、同世代の中高生が書いた文章が掲載されているなど、得られる情報が膨大にある。N I Eに取り組むことにより、新聞をまるごと読む機会が増え、中学生が世の中の様々な出来事を知り、他者と意見を交流させることで新たな発見や他者理解ができるようになってくると考えられる。N I Eに取り組むことは、新聞から得られた知識や情報が点から線へ、線から面へと広がっていく学びの楽しさを感じることができるであろう。そういう意味では授業にリアリティーとタイムリーな切実感が加わる新聞の活用は、授業における読解力向上に向けての有効的な手段であると思われる。学習と社会をつなぎ、自ら課題を設定するために、教科書から飛び出す授業を展開したいと考えたことから、活動理由の設定とした。

3 身に付けさせたい資質・能力

国語科は全教科の中心的な役割を担いながら、他教科との連携を図りつつ言語能力の向上を目指す教科である。また、国語科が育成する資質・能力が各教科等において育成する資質・能力に資するとされる中で、学びを人生や社会に生かそうとする態度を育むことを目標としている。さらに「国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」の育成を目指すことを目標としている。

社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

知識及び技能

社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

思考力・判断力・表現力等

言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学びに向かう力・人間性等

国語科を中心とした授業でN I Eに取り組むことは「課題の発見や課題解決に向けた主体的・対話的で深い学び」につながる活動である。今年度は全学年での「新聞レポート」と「まわしよみ新聞」に取り組んだが、新聞を読むことで「知識・技能」を習得し、根拠を明確にして説明することで「思考力・判断力・表現力等」を育成し、記事の重要度をグループ内で検討することで学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養につながると考えられる。また、新聞記事を切り抜いて貼る活動の中で、様々な資質・能力を身につけられる活動であると言える。

他者の意見に素直に耳を傾け、自分なりの意見や考えを持ち、明確な根拠を持って自己表現していくことが、いずれ参画することになる社会への希望となるはずである。本授業を通して社会を生き抜くための「批判的思考力」の育成を図りたい。

4 実践事例

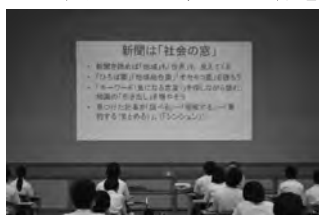
(1) 薩摩川内元気塾

昨年度に引き続き、今年度も南日本新聞社重島修一氏をお招きし、薩摩川内元気塾（よむのび教室）を開催した。本校生徒の小学時代に掲載された記事や中学入学後に掲載された記事等を紹介していただき、本校生徒を褒めていただいた。また、表現力向上のため、今後も積極的に投稿してほしいという願いもあり、生徒自身が書いてみたいと前向きな姿勢を感じることができた。

講演では新聞の構成や完成までの話を伺い、文章の書き方や見出しの付け方も学習した。最近の若者は「ヤバイ」の一言で片付けてしまうが、「〇〇だからヤバイ」という表現の方が、表現力の向上につながるということであった。新聞作りのプロから教わる話は生徒にとって新鮮であり、大変興味深く、実に有意義な時間となったようだ。



【本時の感想が「若い目」に掲載】



(2) 新聞レポート学習

昨年度同様に、今年度も新聞レポート学習を取り入れた。本校区の新聞購買量は他の中学区と比較しても大変低いと予想される。そこで、新聞レポート学習では昨年度以上に新聞を読む時間を確保し、まずは見出しだけに目を通すように指示した。さらに周囲と見出しについて話し合わせ、「この見出しから何を言いたいのだと思う？」と互いに質問させ、少しずつ興味や関心を高めるようにした。次に、気になる写真やイラストだけに注目させた。カラー・モノクロを問わず、印象に残った写真やイラスト3つ選抜し、これも見出し同様に共有させた。「あ、その写真いいね」等の発言があり、多くの人たちに見てもらうために工夫を凝らして構成されていることに理解してもらおうと考えた。

興味・関心が高まったところで、記事に目を向けさせた。詳細に記事を読む時間を確保した上で、気になった記事を3つ選抜させた。さらに、3つの記事をレポート用紙に添付し、選んだ理由を書かせた。選んだ理由を書くことは、批判的思考力を身に付けられ、事実に基づく正確な分析や知識に裏付けされた思考があると考えたからだ。

レポート完成後はグループで交流させ、複数のレポートを併読することで比較させ、多面的なものの見方を養った。また、他者の新聞レポートに対して自分の思ったことや感じたことを用紙の裏に書かせた。情報のインプットに加え、自分の考えをアウトプットさせることが批判的思考力の育成につながると考えたからである。



【1年 熟考後の記事抜粋】

【2年 新聞レポート交流】

【3年 感想書き】

(3) 年賀状作成

日本郵政川内郵便局から「手紙の書き方体験授業」の依頼を受け、全校生徒分（1人1枚）の年賀状をいただき、感謝の思いを伝えたい方に送る「年賀状」の制作に取り組んだ。昨年度も取り組んでいたが、今年度は年賀状を制作する上で新聞記事を取り入れることを考えた。



今年度の新聞から話題を見つけ、そのことについて触れた年賀状を書くことにした。年賀状の宛て名は、家族・親族・お世話になった方、先生方等、幅広く考えさせた。最初は「難しい」「〇〇に新聞の話題なんて」と騒がしく批判的な意見も多かったが、時間が経つにつれて真剣な眼差しで新聞に目を通すようになっていた。

【2つに限定した条件】

新聞から1つの話題を取り上げること
取り上げた話題について触れた文を取り入れること

(4) 実証授業（中学2年 30名）

ア 単元名 「批判的思考力を育む新聞の活用～まわしよみ新聞を通して～」

イ 単元の指導目標

- ① 互いが選んだ記事を、図や絵、記号などを用いて整理することができる。

【知識・技能 (2) 情報の扱いに関する事項 ○ 情報の整理 イ】

- ② 自分の知識や経験と新聞記事を結びつけ、根拠を明確にした上で、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【思考力・判断力・表現力等 C読むこと (1) オ】

- ③ まわしよみ新聞を通して、他者と積極的に意見交換し、ものの見方を深めようとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

ウ 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
互いが選んだ記事を、図や絵、記号などを用いて整理することができる。 (2) 情報の扱いに関する事項 ○ 情報の整理 イ	自分の知識や経験と新聞記事を結びつけ、根拠を明確にした上で、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 C読むこと (1) オ	まわしよみ新聞を通して、他者と積極的に意見交換し、ものの見方を深めようとする。 主体的に学習に取り組む態度

エ 単元の指導計画（全3時間）

時	学習活動	言語活動における指導上の留意点
1	1 本時の学習の流れを確認する。 2 「まわしよみ新聞」制作における留意点を聴く。 3 新聞に目を通し、注目記事を切り取る。 4 グループ内で意見交流し、トップ記事を決める。 5 「まわしよみ新聞」の制作を行う。	・ 学習の流れを理解することで、本時の学習に見通しを持たせる。 ・ 「まわしよみ新聞」の制作における注意点を意識させる。 ・ 各自が選んだトップ記事の根拠を明確にさせる。 ・ 他者の意見に耳を傾け、意見交流した中で、トップ記事を決定させる。 ・ 「まわしよみ新聞」の楽しさや難しさを感じながら制作させる。
2	1 制作を続ける。 2 途中までを紹介する。 3 他のグループの発表を聞き、「まわしよみ新聞」について振り返る。	・ コメントやデザインなどを工夫させる。 ・ どんな点に意識しながら制作したかを明確に述べさせる。 ・ 他のグループの発表を聞き、工夫している点等を考えさせ、今後の自分のものの見方や考え方につなげさせる。
3	1 まわしよみ新聞を完成させる。 2 グループごとに発表する。 3 全3時間を振り返り、「まわしよみ新聞」の成果と課題を考える。	・ 時間に限りがあることを意識させながらも丁寧な完成を目指すさせる。 ・ どのような点に工夫し、苦労したかを発表させる。 ・ NIEを通してどのようなことを意識し、どのような力が身についたかを考えさせる。

オ 本時の指導計画（1、2時）

- ① 本時の目標

「まわしよみ新聞」を通して、ものの見方や考え方を広げることができる。

- ② 本時の学習目標

分かりやすい「まわしよみ新聞」に挑戦しよう。

③ 本時の実際 (1、2/3)

過程	学習活動
つかむ見通す	1 本時の学習の流れを理解する。 2 本時の学習目標を確認する。 【 本時の学習目標 】 「まわしよみ新聞」に挑戦しよう 3 「まわしよみ新聞」の説明を聴く。
調べる・深める	4 「まわしよみ新聞」の制作に取り組む。 ① 新聞を読む。 ② 「気になる」「面白い」という記事を切り取る。 ③ グループで記事を発表する。 ④ 「トップ記事」を決定し、その他の記事も含めて台紙に貼っていく。 ⑤ 表に新聞名と日付け、裏に編集後記を記載する。
振り返る	5 できたところまでの「まわしよみ新聞」の紹介を行う。 6 自己評価カードを記入する。 7 次時の学習内容について確認する。



【 記事の選択 】

【 トップ記事検討 】



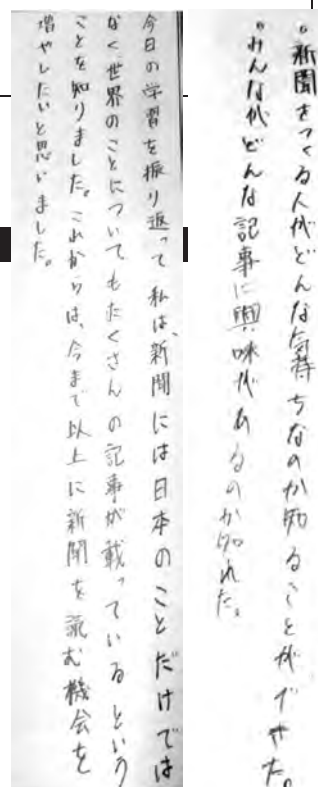
【 レイアウト検討 】

【 グループ発表 】



【 田畑氏の講評 】

※ 南日本新聞社の田畑氏が来校し、参観及び取材を行ってくださいました。



カ 本時の評価
 分かりやすい「まわしよみ新聞」に挑戦できたか。

5 成果と課題 (○成果 △課題)

- 帰りの会での1分間スピーチに新聞を活用するなど、学校全体で新聞を読む生徒が増加したと感じられたのは、N I Eに取り組んで2年目の成果であると感じられる。
- 南日本新聞社重島氏の御協力により、今年度も元気塾で全校生徒を対象とした「よむのび教室」が実施できたのは、新聞教育に対する意識付けには十分であった。また、感想を書いた生徒の感想が「若い目」に掲載されたのは、生徒の意欲の高まりにつながった。
- 新聞を活用した国語科・社会科・技術科の授業を通して、マスメディアとの関わり方やメディア・リテラシーの育成に努められた。
- △ 学力低下が叫ばれている中、新聞にある漢字を読めなかったり、内容を理解できなかったりする生徒もいたため、語彙力の低下を痛感する結果となった。日頃から漢字指導を含め、語彙力の育成を目指した教育活動を充実していきたい。
- △ 新型コロナウイルス感染症拡大防止により休校が相次ぎ、授業時数の確保に苦慮する中、N I Eに取り組む時間をいかに生み出すか苦勞し、先生方にも迷惑をかけることになってしまった。

6 終わりに

N I E 2年目は昨年度以上の活動及び成果を上げようと考えてスタートしたもの、学校教育に「新聞を取り入れていく」ことの難しさを痛感した。先にも述べたが、国語は日本語の根幹を担う教科であるため、N I Eを通して「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を果たさなければならないだろう。

来年度以降も、日本語で書かれた新聞を通して、「どうしたことだ」「そうだったのか」等、それぞれが疑問をもちながら読み、自らの力で課題解決を図れるように、批判的思考力の育成に尽力したいと考えている。

令和3年度 N I E 実践報告

始良市立山田中学校

N I E 担当 内村加代子

1 はじめに

「新聞の内容に興味関心を持ち、自分の意見が述べられるように、山田中全体でとりくむ。」を目標とした、令和3年度（2年目）の実践を報告する。

2 実践事例

(1) 生徒会活動

ア 生徒会専門部組織にN I E 係を定着させ、今後も継続的な活動ができるようにしている。N I E 係が新聞コーナーをつくり、新聞の管理と校内掲示を行っている。休み時間に新聞を読んだ人が気軽に感想を書けるように、コーナーにはふせんとペンを準備している。



イ 週1回（火曜日）の全校朝会でN I E 係が「今週のトピック」として、最近の気になるニュースを紹介し、自分の意見を発表している。発表担当者が記事を選び、聞き手にわかりやすいように、難しい言葉は変換して伝えている。（〔例〕「米国」は「アメリカ」と言い変える。）聞き手を話題に引き込むために、クイズ形式で発表したり、聞き手に質問をしたり、発表回数を重ねるごとに伝える力が向上している。また、週1回の短い時間ではあるが、全校生徒で同じ社会課題について知り、考える貴重な時間になっている。

<発表内容の例>

* 子どもの権利条約

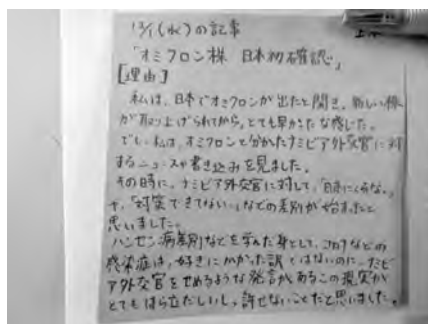
* 地球温暖化による北極海の変化

* 衆議院選挙の仕組み

* 日本における外国人労働者や難民問題



- ウ 今年度本校は南日本新聞社の学習支援サイト「すくーる 373 る」を利用することが可能となった。そこで 週 1 回の向学タイム（水曜日 25 分間の朝学習の時間）に、一人 1 台タブレットを利用し、新聞を読んでいる。読んだ記事の中から特に印象に残った内容について、一人ずつ、ふせん一枚に感想を書いている。感想を書いたふせんは、N I E コーナーに全員分を掲示している。感想や意見を「若い目」に投稿したい生徒はオンライン上で文章をまとめる。それを教員がチェックし、同社へ送信している。思考力や表現力を磨く絶好の機会なので投稿する生徒を増やしたい。



(2) 教師の活動

ア 英語

- ・南日本新聞「オセモコ」で紹介されている「今週の英語 NEWS」を英語コーナーで掲示している。事前に知っている時事内容を英語で見ることで、生徒が興味を持ちやすく、読んでみようと思える。



イ 理科

- ・3年生「生物の進化」について学習している時、新たに恐竜の化石が発見された記事が掲載されていたので、「すくーる 373 る」で検索して、読み合わせをした。新聞だからこそ、最新の研究情報を学ぶことができる。

<生徒の感想>

- * 今、新種の恐竜が出てきたことは、この恐竜だけではなく、まだ見つからない多くの恐竜がいるのでは？と思う。

ウ 保健体育

- ・最近のスポーツニュースを定期テスト問題として出題することで、新聞を読まない生徒も閲覧するようになった。
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックの記事の紹介と掲示を行った。興味を持ちテレビ観戦が増えた。
- ・全国・九州大会等で活躍している地元の小・中・高校・大学・一般のチームや選手を取り上げ、2023 かごしま国体やかごしま大会を盛り上げていきたい。

エ 国語

- ・『南日本こども新聞「オセモコ」夏休み特集号 2021』7/6 を活用し、全学年に夏休み課題である作文の事前指導を行った。手元に残る資料として、家庭で作文制作にとりくむ際に役立った。書くこと・読むことの指導に新聞を積極的に活用したい。

オ 音楽

- ・各地域の郷土芸能に関する記事の紹介をすると、自分たちが生活している地区の郷土芸能に興味を示すようになる。鹿児島県各地区で活躍している部活動（吹奏楽部など）を紹介することで、活動意欲が高まる。

カ 美術

- ・各作品展覧会の記事から作品紹介を行った。優秀作品が載っている新聞を掲示することで、作品づくりの参考にすることができた。

キ 技術

- ・情報モラル（SNS によるいじめ問題・デマの拡散・個人情報の流出など）に関する事例の共有を新聞記事を紹介して行っている。

ク 学級通信等

- ・8 月は特に「戦争と平和」について考えて欲しいため、学級通信に戦争体験者のインタビュー記事や広島や長崎の平和祈念式典の「平和への誓い」などを載せている。
- ・2021 年 4/20「小中生の近視初調査」、2021 年 9/12「心の病気 食生活と関連」など子どもたちの健康に関係する記事は、学級通信で紹介し、保護者にも読んでもらえるようにしている。
- ・生徒指導通信で 2017 年 6/1「バドミントン桃田選手の復帰戦」の記事を使用した。「すくーる 373 年」で過去 5 年分の記事を検索可能であったため、使用できた。

ケ 道徳

- ・12 月人権週間中の保護者参観授業「道徳」で部落差別問題を学習した時、2021 年 10/15 の記事「続く部落差別」を活用することで、部落差別問題は過去のことではなく、まさに現在にも生き続けていることを、保護者と共に学習することができた。

コ 総合的な学習(文化祭)

- ・「すくーる 373 る」で「鹿児島県/新型コロナ/差別」を検索し、この 2 年間の記事を利用して、コロナ差別やデマを題材に劇を制作し、文化祭で演じた。記事に書かれている取材を受けた人の声を生徒自ら声で伝えることで、差別される側のつらさに共感することができたようだ。

サ 社会科

- ・2021 年 10 月衆議院議員選挙の機会をとらえて主権者教育を行った。選挙カーが通り、街にポスターが貼り出され、身近な出来事として生徒も関心を持っていた。国政選挙の仕組みを学ぶチャンスであった。新聞で各候補者の公約をじっくり読み比べ「わたしは〇〇の理由で△△さんに投票したい。」と意見を述べることができた。

＜実際の投票結果を受けての生徒意見＞

- * 自分が予測した候補者ではない人が実際は当選したが、選挙前に調べたことで、当選した議員らが公約を守っているか、しっかり見ていこうと思う。
- * 投票日は選挙結果が気になってテレビを見ていた。投票率の低さに驚いた。自分たちは棄権せず、必ず大切な一票を投じる大人になりたい。



3 終わりに

- ・記事の内容を声に出して人に伝えることで、読み手の理解力が向上している。
- ・今年度は朝学習の時間にデジタル新聞を個人で読んだ。どの記事を読むかで、感想も個人差が大きい。生徒全員の読解力の底上げのためには、昨年度利用した一つの記事を取り上げて読み解く「南日本新聞ワークシート・ヨンドク」を利用する方が有効である。
- ・デジタル新聞の良さは検索機能だ。キーワードを元に新聞記事をスクラップすることができる。「調べたいこと」を検索し、読み解いていく学習時間を作ることが必要だ。
- ・来年度本校は人権教育に重点を置くことになっている。新聞には、人権に関する話題は多い。新聞を利用した人権学習を意識的に行いたい。
- ・新聞を購読していない家庭も多いので、家庭教育の参考になる記事は学級通信等で紹介、保護者にも考えてもらえるようにしたい。
- ・すべての教科や学校活動に関連する記事が新聞の中にはある。これからも山田中学校全体で新聞活用にとりくみたい。

令和3年度N I E実践報告

鹿児島県立指宿高等学校

1 目 標

新聞記事の活用を通して、情報リテラシーの涵養を図り、探究的な見方・考え方を働かせ、自己のあり方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質と能力の育成を目指す。

2 育成を目指す資質・能力

- (1) 情報を正確に読み解く「読解力」
- (2) 情報を幅広く収集し、多面的に理解し編集する力
- (3) 実社会や実生活と自己との関わりから、課題を発見し解決しようとする態度
- (4) 自己を取り巻く環境と自己の生き方を結びつけ、探究し続けようとする態度

3 実践報告

(1) 金曜日「朝コラム」の時間の活用

① 概要

本校では、従来からN I E実践として、毎週金曜日のSHR前の10分間に「朝コラム」の時間を設けている。「朝コラム」とは、選択された社説や新聞コラムを読み、文章要約や自らの考えをまとめる活動である。実施方法は次の通りである。①小論文指導の担当教諭が当番制で記事を選択してワークシートを作成する。②学級担任は、生徒の要約や記述を確認してコメントを記入して生徒にフィードバックを返す。今年度は特にSDGsを意識し、新聞記事と関連の深いSDGsの番号を明記してワークシートを作成した。

(実践例)

テーマ	SDGs	引用
フードロス	1, 12	2021. 3. 8 読売新聞
温室ガス	7, 13	2021. 4. 30 読売中高生新聞
石炭発電	13	2021. 6. 17 朝日新聞
難民・紛争	10	2021. 7. 9 朝日新聞
パラリンピック	10, 16	2021. 9. 6 南日本新聞

② 課題意識

昨今、実用的な文章やグラフを読み取る「読解力」の養成が求められている。一方で、近年のSNSや動画サイトの普及によって、論理的にまとめられた文章を高校生が読

む機会は減少傾向にある。本校でも、入試改革の影響や入試方式の多様化の中で、生徒の「読解力」を養成することは喫緊の課題となっている。以上のような理由から、本校では「朝コラム」を通して週に1回、社説や新聞コラムに触れる機会を設けてきた。しかし、記事の十分な読解が行われないまま感想文を記入するケースも多く、十分に活用できていないという課題が見られた。

③ 実践と成果

そこで、本年度は生徒が記事の構造をふまえて論点を読み取ることができるように、着目するポイントを押さえるための問いと問題解決につなげるような問いを段階的に設定した。

(例1) 温室ガス削減 (2021/4/30)

- Q1 温室ガス「30年までに()」本文を読んで空欄を埋めなさい。
- Q2 目標達成が困難な理由は何か。産業、運輸、店舗、家庭に分けて要因と改善策を答えなさい。

(例2) 食品ロス (2021/3/8)

- Q1 非常食のイメージを書きなさい。
- Q2 食品ロスを防ぐことになる非常食の特徴を本文から読みとって書きなさい。
- Q3 紹介されている非常食は、災害時のどのような問題の解決につながりますか。あなたの考えを書きなさい。

以上の問いの設定によって、多くの生徒が、記事を丁寧に読み込み、内容を踏まえた意見を書くようになった。

(2) 2学年「総合的な探究の時間」における活用

① 概要

本校2年生は、総合的な学習の時間に自身で設定したテーマに基づいて「柏葉アクティバ(課題研究)」を行っている。火曜7限の時間に課題テーマごとに4つのプロジェクト(こども、医療、環境、グローバル)に分かれて活動してきた。

② 課題

昨今、SDGsに示される世界的な社会問題や人口減少社会における地域課題など、多様な課題が社会的関心となっている。同時に、「総合的な探究の時間」や地域課題解決や課題研究に関するコンテストなどにおいて、高校生が関心を持ち調査や探究を行う機会も増えつつある。しかし、日頃から社会問題に関心がない生徒にとっては、課題

研究のテーマ設定を行うことが難しいということが従来の課題であった。

③ 実践と成果

そこで、生徒の社会問題への関心を高めるために、以下の2つの実践を行った。

(ア) N I Eスペースの設置

空き教室に新聞を並べ、記事の切り抜きを行うスペースを設置した。生徒は記事を活用して課題研究のテーマを設定したり、研究テーマに関連づけて情報収集を行ったりして探究を深めることができた。

(イ) 新聞スクラップノートの作成

先述したプロジェクトごとにプレゼン発表をするため作成し、1年生を中心に記事のスクラップを行った。生徒はプロジェクトに関連のある記事を切り抜いてスクラップし、プロジェクトチーム内での議論や自身の課題研究の資料として活用することができた。

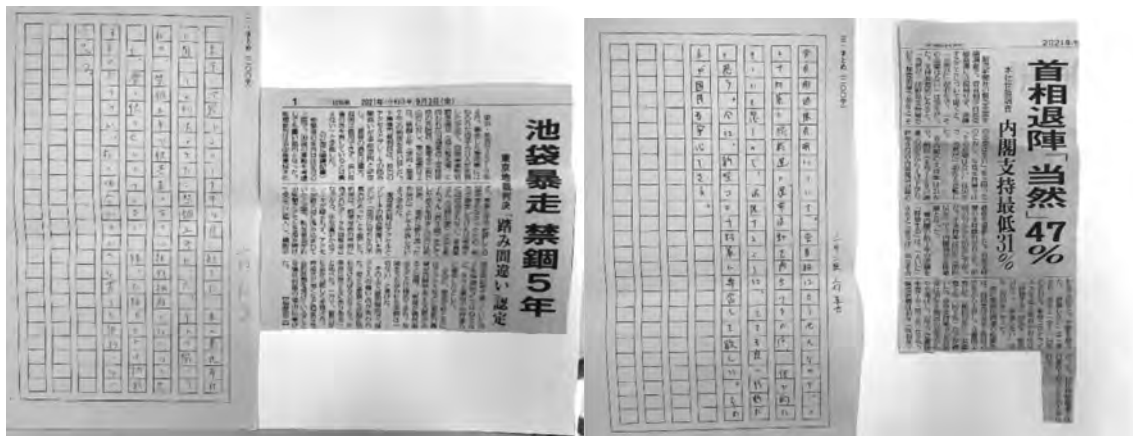
(研究テーマの例)

ゼミ	研究テーマ
こども	子どもを中心としたまちづくり，教育，こども食堂
医療	地域医療，お産，放射線，薬学，看護
環境	ベッコウトンボ，ウミガメ，海洋ゴミ，宇宙
グローバル	日台交流，途上国支援，比較文化，LGBT+

新聞活用の成果として、生徒が設定したテーマに次のような傾向が見られた。従来は、環境・国際問題のような世界的課題をインターネットや文献を用いて調べる生徒が多かったが、新聞の活用によって、地域課題に関するテーマ設定が増え、実際にインタビュー調査を行うなど1次データを収集する生徒も増えた。また、世界的課題に関しても、地域社会などに結びつけて探究し、課題の当事者としての視点を持つことができた。

4 考察

「読解力」の養成や探究学習において、最新かつ多様な分野の記事を得られる新聞の魅力は大きい。さらに、新書や論評に比べて、新聞記事は書き手の「主張」ではなく客観性の高い「事実(事象)」や「論点」を中心に記述しているため、高校生が自身の考えを構成するための余地と素材を与える。今後も、生徒自身が問いや仮説を立てたり、論理的な道筋を組み立てたりするための思考力を涵養するために、新聞活用の習慣や技法を日常的に身に付けさせる仕掛けを学習活動の中に設定していきたい。



令和3年度 NIE 実践報告書

鹿児島県立楠隼高等学校

1 はじめに

本校は平成27年に開校した全寮制の中高一貫の男子校である。全国から生徒募集を行っており、国内だけでなく海外の日本人学校出身の生徒など、多様な生徒が寝食を共にしながら勉強や部活動に日々精を出している。

開校以来、寮への携帯電話・スマートフォンの持込みを禁止しており、一方で、新聞を各教室や寮のフロアごとに2紙（南日本新聞・朝日新聞）配布しているため、重要な情報源として、生徒が日々、新聞を読む姿が見受けられる。

2 今年度の実践

今年度は実践計画の3年目であり、主として高等学校第1学年（2学級）の現代社会の授業で年間を通じて、随所で新聞を授業内に取り入れる活動を行った。

（1）新聞記事を用いた授業プリント



前半に教科書の内容を取り上げた上で、後半に知識の確認のための課題と授業内容に関連する新聞記事がセットになったプリントを配布した。生徒には課題をクリアした後に記事を読み、それを踏まえて自分なりの意見を書くことを求めた。

新聞記事は事前に「経済発展と環境保全」、「医療技術の進歩と生命」など、明確には答えを出しづらく、生徒間である程度、意見が割れることが想定される内容を選んだ。（明確に選択肢を与えて、どちらを指示するかなど、生徒が書くことに取り組みやすくなるような工夫も行った。）

（2）授業内容に関連する新聞記事の掲示

現代社会で学習した内容は、日々のニュースや、新聞の特集記事とダイレクトにリンクすることも多い。授業に関連した内容や、生徒が興味関心を抱くと思われる記事を選別して、教室前の廊下に定期的に掲示を行い、学習内容の深化と日頃、新聞に触れることの少ない生徒へのきっかけ作りを図った。

生徒からの反応もよく、授業数日後に関連記事を掲示した際には、「この記事が掲示されると思っていました」と、事前に掲示される記事を予想する生徒もいた。



（3）新聞記事に対する生徒感想の掲示

（1）と（2）を組み合わせ、授業で扱った記事に対する生徒の感想を掲示した。生徒間・学級間での意見の相違や、元の記事、更に関連する記事の掲示を追加で行うことで、論点の理解を深めた。また、結果的に廊下を通る他学年の生徒にも、学びを生むことができた。

授業で取り上げたのは4月13日の日本経済新聞の記事で、脱炭素社会を目指すにあたり「より高い目標を掲げイノベーションを図るべきか（野心派）」、「実現可能な目標を少しずつクリアしていくべきか（積み上げ派）」、環境省と経済産業省との間で駆け引きが行われている、とする内容。



学級間で考え方の差が大きく出たことから掲示（実際には授業の際の生徒質問から、片方の学級のみ、日本の対応の遅れが非難されたことを説明した影響が強いと思われる。）



意見を掲示する上では、論拠がしっかりしているものを取り上げ、こういった部分が優れているのかをこちらで示した。また、単純な両論併記に陥らないようにすることも心掛けた。（最終的に「脱炭素が目指すべきゴールである」ことが意識できているかを重視。）

以上のような活動を複数回行って、現代社会の中で情報を得るツールとして新聞を活用すること、読んだ上で自分なりの意見を持つことの重要性、一つの事象に対し多様な意見が存在することなどを、生徒に認識させることができたと考える。

（４）まわし読み新聞の作成

現代社会の教科書は「現代社会分野」、「倫理分野」、「政治分野」、「経済分野」、「国際（政治・経済）分野」に概ね大別される。授業では、こちらが事前に準備した記事を配布し感想を書く形式を取ったが、経済分野まで終了した段階で、生徒自ら記事を選び、それについての意見や感想を書く活動を行った。

※ まわし読み新聞 (<http://www.mawashiyomishinbun.info/>)



学級ごとで班を編制。各班に事前に、「リーダー」、「地球環境」、「地方の力」、「経済」、「戦争と平和」の5つのジャンルを割り振り、それに関連する記事で自分が興味・関心を持ったものを自由に切り貼りし、一つの新聞となるようレイアウトさせた。

生徒が意見や感想を書き込む上で、「可能であれば授業で学んだ内容を踏まえる」ことを求めることで、これまでの学習内容の深化を図った。

完成後、学級間で同じジャンル同士の作品を同時に教室前の廊下に掲載し比較できるようにした。紙面のレイアウト、重視した記事や意見・感想の違いなどを生徒の学びにつなげた。



生徒間や職員に新聞を読んで、よいと思ったことや感想を付箋に書いて貼れるようにし、さらなる気づきを生めるように工夫した。

3 実践を経て

新聞を学習に取り入れる上では、情報を入手するツールとして学習内容の深化や具体化が中心になってしまいがちだったが、これらは実際にはインターネットのニュースサイトでも可能な内容である。（さらに、検索して調べるという機能において新聞は明らかに劣る。）

インターネットと比較したときに、授業で生かすことのできる新聞の特性を2点考えた。1点目は紙面のレイアウトから情報を得ることが可能である点である。「その日一日にとって一体何が一番重要であったか」を直感的に知り、ページをめくらずとも、図や写真によって、対立する二つの意見がどのようにぶつかっているのか、新聞なら紙面を見て瞬時に読み取ることができる。

2点目は、読んだ上で一度立ち止まって考えることができる点である。もちろん、これはインターネットでも可能ではあるが、随時更新されて情報が埋もれていく傾向が強いインターネットでは情報を追いかける必要がある。これに対し、新聞は、「立ち止まらざるを得ない」点で逆説的に勝っていると言える。与えられた情報を基に考えることで、思考を深めることができるメディアであると言える。

実践の上では極力、記事の紹介（情報の提供）だけでなく、これらの2点を意識して取り組むように心掛けた。結果として「関連した新聞記事を読むことで授業内容を深めることができた」といったものだけでなく、「新聞ごとで重要視している情報の違いや伝え方のニュアンスの違いに気付いた」、「記事を基にした意見交換の結果、より深く出来事と向き合えただけでなく、全員が納得する答えを出す難しさを感じた」、「レイアウトを考える中で情報を取捨選択して伝える難しさに気が付いた」のような感想もあり、生徒にとってよりよい学びの形を作ることができたと思う。

メディアとしての新聞は、発行部数の減少など苦しい局面にあるが、その特性を大事にすることで、生徒の様々な能力を育成することができると思う。今後も、積極的に実践に取り組んでいきたい。

令和3年度N I E実践報告書

鹿児島県立錦江湾高等学校

1 目標

S N S等の発達により手軽に情報が発信され受信できる今，改めて情報の収集，分析及び文章化する技術の結晶である新聞に触れることで，リテラシー能力を育てるとともに，時事に目を向けて社会と自己との関連を見出させる。

また，新聞の情報をさらに発展させ，自分自身で調べ，まとめるという行為を通して視野を広げさせるとともに，課題の発見・解決といった探究能力を育成する。

2 実践内容

(1) 1学年でのスーパーサイエンスハイスクール学校特設科目「ロジックプログラムⅠ」における活用

本校は，第Ⅲ期スーパーサイエンスハイスクール（S S H）の指定校であり，理数科及び普通科の全生徒が探究活動を行っている。特に普通科ではサイエンスに囚われずに，文系分野を含む多様な分野での探究活動が行われる。そのため，探究活動が始まる前の段階として，興味関心や視野を広げつつ信頼性の高い情報源に触れる契機と位置づけて，普通科のS S H学校特設科目「ロジックプログラムⅠ」内で新聞を使用した。

ア 南日本新聞社に講師の派遣を依頼し，メディアとしての新聞について及び「まわしよみ新聞」の作り方についての講演を行った。



図1 講演会の様子



図2 新聞を手にとって話を聞く

イ 南日本新聞社の講師からアドバイスをもらいながら，グループ単位で気になった新聞記事をA 2サイズの用紙に貼り付けて感想を書いた「まわしよみ新聞」を作成させた。



図3 南日本新聞社の方の説明



図4 グループで作成

ウ グループでテーマを絞って各自で記事を選んだ，第1弾「新聞ポスター」を作成させた。

エ 第1弾の中から記事を1つ選び，その内容について調査し深めた結果をまとめた，第2弾「新聞ポスター」を作成させた。

オ 各学級でポスター発表を行わせて代表を決定し，代表グループに学年全体で実施する「新聞ポスターコンテスト」で発表させた。外部から審査員を呼び大賞他を決定した。

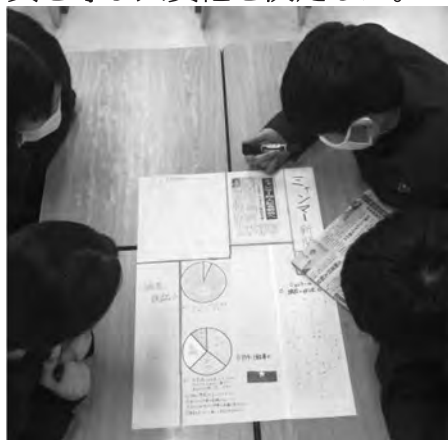


図5 クラス内での発表準備



図6 左側に審査員席

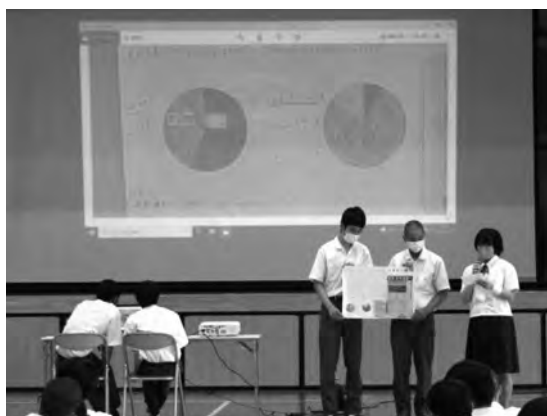


図7 コンテストでの発表の様子



図8 最優秀賞受賞ポスター

(2) 「読解力トレーニング N I Eの日」の実施

ア 週1回、朝のショートホームルーム前の15分間で実施した。

イ 全校生徒に新聞記事を与えて読ませ、気になった記述やキーワードに線を引かせた。

ウ それについてその場でスマートフォンやタブレット等のICT機器を用いて調べさせた。その結果を用紙にまとめさせた。

エ 以下のことを狙うため、記事についての感想を書かせることにはこだわらずに自由に実施するように心がけてスタートした。

(7) 記事から何を調べ深めるべきかを自分で見極める活動を通した課題発見・解決能力の育成。

(4) 自己の興味関心をモチベーションとして学びが深まっていく体験。



図9 スマートフォンを用いた「N I Eの日」実施の様子

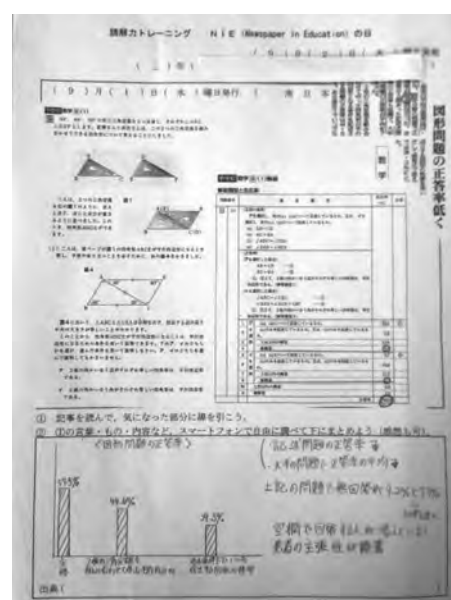


図10 時事ネタに固執しない多様なネタ選び



図11 担任からの一言コメント
教員にもコメントを強制せず義務感を無くすことで、教員の負担減と教員側も楽しんで参加できることを狙った

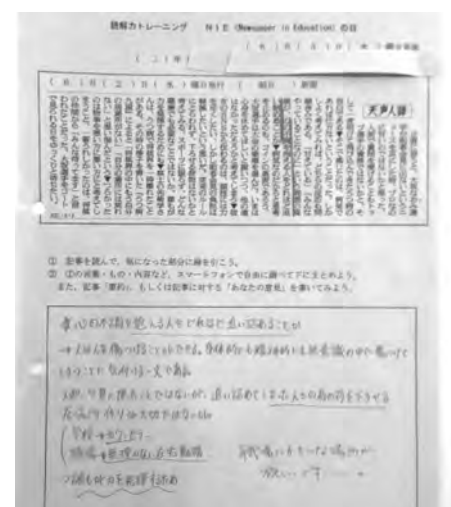


図12 素朴なコメントから生徒とのコミュニケーションが生まれることもあった

(3) 生徒が新聞に触れる雰囲気醸成

ア 授業を用いたN I E関連のコンクール参加の促進

N I E関連のコンクール参加という目標を作ることで、生徒が自ら新聞を手にする機会を増やすことを目指したが、新型コロナウイルス感染症対策の影響で授業時数が例年より少なくなり、授業内でそのような時間を設けることが難しかった。ただし、長期休業中の作文題の1つとして設定することで、一部の生徒には授業外で触れさせることができた。

イ 新聞を手にとって読むことができる仕組み作り

配布される各紙を各学級に割り振り、これまで以上に物理的に生徒の近くに新聞を置くことで、誰でも簡単に手にとって読むことができる雰囲気の醸成を目指した。しかし、新型コロナウイルス感染症対策の観点から不特定多数の生徒が同じものを触る機会を作ることは好ましくないという判断から、断念せざるを得なかった。来年度は実現したい。

3 成果と課題

(1) 成果

ア 探究活動の始まりと位置づけて新聞を用いた活動を行うことを心がけた。先述の活動によって、生徒は2学期以降の探究活動において自由に探究のテーマ探しをすることができた。

イ 記事をまとめる際に、形式や内容を敢えて細かく指定しないことで、生徒は自ら絵を描いたり、グラフや表にまとめたり、時には思いを熱く語ったりと、様々な形で思考を表現することができた。

ウ 「まわしよみ新聞づくり」を1学年の年度当初にグループで行うことで、記事に対して意見を交わし合う中で互いの思考が垣間見え、生徒同士の交友が深まった。特に今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため学校行事も縮小されたり無くなったりする中で、生徒同士のアイスブレイク及びコミュニケーションの機会として大きな意義があった。

エ 「N I Eの日」で生徒が書いた感想や調べた内容に対して、教員が一言コメントを書いて返すことで、それをきっかけに生徒とのコミュニケーションが生まれる場面があった。

(2) 課題

教員が監督に付けない状態でスマートフォンを用いることが難しい状況があり、「N I Eの日」の実施において、年度後半は主に感想を書く活動に終止してしまった。

ただし、情報に触れ、それを自分に引きつけて考え、感想を持つという活動は決して無駄ではなく、積極的に取り組む生徒の姿が見受けられた。

令和3年度 N I E実践報告 れいめい中学校・高等学校

報告者：れいめい高等学校 荒田 邦子

1. はじめに

本校は、中高一貫校である。令和2年度よりN I E実践校となっている。特に、普通科キャリアアップコースにおける取り組みについて実践を継続しながら、中学校においても「夢発見プロジェクト」として「回し読み新聞」の作成などの実践をしている。

2. 令和3年度 実践項目

- ①1日1記事（ワークシートの活用）
- ②新聞記事を使ったディスカッション
- ③中学校における回し読み新聞の作成
- ④若い目への投稿及び新聞感想文コンクールへの応募

3. 実践事例

①1日1記事（ワークシートの活用）

〔実践期間〕 通年

〔対象〕 高校1年～3年 普通科キャリアアップコース

〔実践内容〕

普通科キャリアアップコースにおいて、1・2年生は「南風録」の書き写し及び読後感想の記述を行ない、3年生は記事を選択し要約と自身の考えを記述する活動を行なった。いずれも、登校後から朝のSHRが始まるまで集中して行なう。また、それまでに書き切れない場合は、放課後までに休憩時間等を利用して書き終わることを目標としている。

〔成果〕

高校1・2年生については、字をきれいに書くことと、自分の意見をしっかりと表現できるようになる力をつけることを目的として行なった。実施当初はなかなか自分の意見をまとめることができず、二・三行しか書けない生徒もいたが、段階的に目標設定をして、今では自分の意見を設定欄のなかでまとめることができるようになってきた。



目的外の成果としては、記事中には生徒が知らないことも多く、生徒の知識を増やし深めていくことができ、物事をいろんな角度からとらえる力もついてきた。

3年生については、特に地域課題につながる記事を選択した。当初は記事のポイントがうまく要約できなかったが、繰り返すうちに要領を得た要約ができるようになった。加えて文章を読むスピードをアップしながら、内容を正確に捉える力をつけることができた。また、新聞でテーマを絞った記事を読み込むことで、入試の小論文や面接試験に応用することができた。

②新聞記事を使ったディスカッション

[実践期間]

令和3年7月夏期補習期間（1日）

[対象] 高校1年～3年 普通科キャリアアップコース

[実践内容]

国語の授業において新聞に随時掲載されている「言葉×コトバ」を読み、その語句を正しく理解するところから考えを広げ、社会的な課題についてディスカッションする活動を実践した。

テーマは「ファミリーシップ制度」で、この言葉について知らない生徒も多かったことから、ディスカッションを始める前に家族のあり方についての考えをまとめさせたり、LGBTQについての知識などを考えさせてからグループに分かれてディスカッションを行なった。

[生徒の感想]

- ・語句から社会的な問題を考えることは難しかったが、みんなの意見を聞いて理解が深まったと思う。
- ・どうなるかと思いましたが、知らないことを知ることができた。
- ・一人では考えられないようなことをみんなと考えることができ、今後の制度整備に興味があった。

[成果]

生徒たちは、当初語句についての説明だけを読んで課題を見つけることが難しいと感じていたが、グループで話し合いを進めていくうちに互いの知識を共有することで理解が深まり、ニュースでの取り上げ方や現状に関する情報などが生徒間から出てきた。話し合いを進める中で、自身の経験や、身近な人から聞いた話などを思い出すことで、他人事ではないと感じることができた。

2022年1月5日には、南日本新聞に「鹿児島市のパートナーシップ制度第1号カップル、笑顔で会見」の記事に気づいた生徒も多く、授業時に話題にする生徒が数人あった。言葉の意味を正しく知ることが、興味をもち経過の観察を続けることにつながり、広い視野をもって社会と関わっていく一助となると感じた。

③中学校における回し読み新聞の作成

[実践期間]

1 回目 令和3年10月29日（金）～令和3年11月26日（金）（全6時間）

2 回目 令和4年2月

[対象] 中学校1年

[実践内容]

まず、興味のある新聞記事を1人3つ選び、選んだ記事を持ち寄ってグループで新聞づくりを行った。決められた大きさの模造紙にまとめるには記事を厳選しなければならない。生徒たちは、対話の中で、みんなが知りたい情報は何か、また自分たちが絶対に伝えたいことは何かなど話し合いながら新聞にまとめる記事を決めていた。はじめは新聞の構成がわからない生徒も多かったが、活動を進めるうちに、見出しを何度もつくり直したりレイアウトを工夫したりするなど、新聞の構成をふまえて作れるようになった。

新聞完成後は、まわしよみ新聞発表会を行い感想を伝え合った。新型コロナに関する記事が多かったが、同じ記事でもとらえ方が違うことを知り、視野を広げることができた。

[生徒の感想]

- ・初めて新聞をちゃんと読んで、いろいろな記事があることに驚いた。
- ・記事をまとめるのは難しかったが、みんなで工夫して作る作業は楽しかった。

[成果]

学級内で新聞をとっている家庭は約3分の1であり、新聞を身近に感じる生徒は少なかった。しかし活動中は、会話の話題として新聞の内容が出てくるようになったり、休み時間や放課後に新聞を閲覧したりする姿も見られた。まずは、新聞を身近に感じられるような環境づくりが重要だと感じた。

また、普段目にすることのない難しい言葉にもふれることができ、語彙力の向上にもつながったのではないかと感じている。

※夢発見プロジェクトについて

本校では、「総合的な学習の時間」を「夢発見プロジェクト」（以下、「夢プロ」）として地域課題の解決へとテーマ設定し、各自でプレゼン発表を行なうまでの一貫したプログラムとなっている。そのため、語彙力・情報収集力・表現力を養うことを目的として、1学年次には国語力の向上をテーマに、文章力検定4級の取得と「回し読み新聞」の作成を行なっている。



※中学校「回し読み新聞」作成および発表の様子

④若い目への投稿及び新聞感想文コンクールへの応募

〔実践期間〕 通年

〔対象〕 全校生徒

〔実践内容〕

毎月の投稿は実践できなかったが、授業において作文指導を行ない、その成果を投稿という形で行なっている。

また、キャリアアップコース1年～3年生については、新聞感想文コンクールへの全員応募（合計80名）を行なった。夏休みの課題として、新聞記事の選定から感想文の提出をし、各学年より1点ずつの応募を行なった。

〔成果〕

残念ながら掲載・入賞には及ばなかったが、生徒たちにとっては新聞をじっくりと落ち着いて読む機会となった。また、興味を持った記事について感想文を書くことで、なぜその記事に興味を持つことになったかなど、自分自身について気づく点が多かったとの感想があった。忙しい学生生活の中で、社会の出来事をきっかけに自身の興味関心を自覚し、今後のあり方への気づきにつながることで進路決定に導いていく可能性を感じた。

4. おわりに

以上の通り、いくつかの新聞を使った学習活動について実践を行なった。新聞は日々情報が更新されるため、継続的な学習活動に有効であると感じている。

コロナ禍にあって、活動が制限されたり継続が難しい面もあると感じたが、今後は、安全に配慮しながらスピーチや数種類の新聞についての読み比べなど、より深い理解力・表現力を伸ばす活動を実践していきたい。

令和3年度 NIE実践報告（実践1年目）

鹿児島県立鹿児島聾学校

1 はじめに

本校は鹿児島市下伊敷に所在する、県内唯一の聴覚障害教育を専門とする特別支援学校である。本年度は幼稚部16人、小学部17人、中学部6人、高等部12人の計51人が在籍している。また、0歳児からを対象とする乳幼児教育相談やきこえの相談、通級指導教室など聴覚障害教育に関するセンター的機能も担っている。

今年度本校では、新聞やICTを活用することで、言語能力や思考力を高めることをねらいとする授業実践に取り組み、その授業を幼・小・中・高の学部を越えて教師が互いに参観することで、実践例等の共有を目指すこととした。

2 本年度の実践内容

(1) 新聞へ親しむための取組

- ・ 学校玄関ホールに新聞閲覧コーナーを設置。
- ・ 幼・小・中・高の各学部へ4紙を期間や新聞社を組み合わせながら巡回回覧。

(2) 新聞に関する全体研修

- ・ 職員研修で担当から全職員へ本年度の研修内容についての説明や、新聞社の方を招いて、NIEの概要や実践例について解説。

(3) 新聞を用いたグループ研修

- ・ グループ研修の概要

☆ 全校（幼・小・中・高）縦割りの4～5人で構成されたグループで、互いの授業を参観し授業研究を行う。

☆ 新聞やICTを用いた言語能力と思考力を高めることを目指した授業を全員が提供し、実践例等を共有。以下にグループ研修の流れ（PDCA）を示す。

① 目指す幼児児童生徒の姿や課題等について共通理解。※P-①は目指す幼児児童生徒の姿

② 授業提供者が授業実践計画シートを作成し、その授業を動画で撮影。

P-② 幼児児童生徒の課題は？	
幼稚部	・ 「乳幼児教育相談」さいころ編（2歳児年齢） ・ 子供によって、視覚的や人工的の聴覚や聴覚の活用状況に差がある。言語のやりとりが少なくなっている子供、聴覚で聞いていない子供、また聴覚が聴いていない子供など、言語・コミュニケーションの発達に遅れがある。〈保護者の受け止め方など〉 ・ 「聴こえない」という気持ちを共有することができようか、人の話をきくためのやり方を保護者にもしっかりと意識してもらう必要がある。
小学部	・ 聴覚障害や聴覚の発達度が少ない。 ・ 手話を正確に覚えていない。 ・ 聴覚を付けて説明することができない。 ・ 自分の考えが相手に伝わるような言い方ができない。 ・ 手話言語が得意であるが、書き言葉では、読解が苦など課題がある。 ・ 話をすることが好きで、様々なことを伝えることができるが、相手の立場や周りの状況に合わせた言葉をとることが難しいことがある。 ・ 人の話を聞くことと自分の考えを伝えることが、興味や関心、内容が難しかったりすると途中で切れてしまうことがある。
中学部	・ 文章をある程度読解し、考察できるが読解は困難。 ・ 話し合い活動でも意見は出るが、論議と事実との結びつきが分からない。
高等部	・ 情報収集の指、収集する情報の質や情報源に偏りが更なる。 ・ 論理的な文章・データの読解や、読み取った内容を論理的な文章にまとめることができる。 ・ 社会の中における自己の役割が十分に認識されていない。

上記の課題を踏まえ、有効と考えられる学習とは？

幼稚部	・ 「乳幼児教育相談」2歳児年齢 ・ 聴覚や聴覚の発達度を踏まえ、親子それぞれができるように活動を設定する。 ・ 〈子供〉子供が、聴や聴覚など多様な方法で、言語、手話、声、音声、〈保護者〉子供の聴覚に合った、さらに聴覚に合ったような働きかけをし、よりよい学習を学ぶ。
小学部	・ いろいろな場面や場面での聴覚や聴覚の活用 ・ 手話を付けて説明する活動を取り入れる。 ・ 日記を付けて、自分の経験を文章化して伝える。 ・ 日記や文章作りを通して、正しい読みや文章表現に慣らす。 ・ 自分の活動をもとに書いて読解するなどして、適切な読み方や行動について考える機会を設定する。 ・ 興味・関心のある話題や情報源を設定し、人の話を聞いたり、記事を読んだりして、自分の考えをまとめる。
中学部	・ 読物の意味を正確に読み、読解で登場人物の行動や心情を読み取り、内容を捉えやすくする。 ・ 読解したことをまとめ、分かりやすく伝えることで自分の理解度を高めることができるような活動。
高等部	・ メディア等の情報特性や情報収集の方法に関する学習。 ・ 論理的な文章やデータを読み取り、それを元に〈内容や情報をもとに〉自分の考えを論理的に記述する学習。 ・ 時事問題の捉え方や自分との関わりについて議論や意見を述べた学習。

D 授業実践計画シート～授業提供者が記入～			
日時・時間	11月5日	学校	高3-1
場所	高3-1教室	活動・単元・題材名	新聞記事を読んで考えよう「原油価格・為替相場変動の影響」
幼児児童生徒名	UR	YR	
使用機材	右 左	右 左	右 左
言語力・思考力に関する実態	・ 情報収集は比較的多い。情報収集や論理的な文章読解・表現は、簡単なアドバイスがあればできる。	・ 情報収集が少ない。情報収集や論理的な文章読解・表現には助言が必要。	
全体目標	新聞記事から読み取った内容を収集した情報を元に、原油価格・為替相場変動の影響を考察することができる。		
個人目標	・ 社会全体と読者先への影響を多面的に考えることができる。	・ 社会全体と読者先への影響を多面的に考えることができる。	
指導にあたって	・ なるべく自分だけで考えられるように助言は必要最小限にとどめる。	・ 文章の論理展開等を徹底指導しながら記述させる。	
学習活動		指導上の留意点	
教材・教具 (新聞・ICTなど)			
1 本時の活動の流れを確認する。		・ 新聞記事から読み取った内容を収集した情報を元に、自分の考えを〈国から〉文章にまとめ、発表まですることを伝える。	
2 新聞記事について、集めた情報を元に、自分の考えをまとめる。		・ 家計（一校給）への影響と、社会生活（就職先企業）への影響をそれぞれ考えることとして、課題を自分事化できるようにする。 ① 家計への影響 ② 就職先への影響	
3 まとめた内容を発表する。		・ 相手に伝えることや、相手と自分の考えの違いを整理できるようにする。	
評価		① 社会全体と読者先への影響を多面的に考えることができたか。 ② 社会全体と読者先への影響を多面的に考えることができたか。	

③ グループで授業動画を視聴。参観者はその場の質疑応答と併せて「参観シート」に気付いたことを記入し、授業提供者に返す。（授業研究）

④ 「参観シート」の記述と反省等から授業提供者は「ふりかえりシート」を記入しグループ内で共有。

C 授業参観シート ～参観者が記入～

幼児児童生徒の学ぶ姿（言語能力と思考力に関して）
 ・新聞を読んでいる様子。タブレットを使って情報も集めている。
 ・先生の話に自分の考えをつなげていくように話していたのはいいから思う。

教師の課題
 ・「読書に力をつける」という観点から、新聞を読むことも大切な活動である。
 ・読書で、情報量が多い新聞のどの情報に注目するかを、児童が自分で決めることができるように（小論文）
 ・読書の際には、タブレットがあるので、自分の調べたことなどの画像なども取り入れることが出来るように。
 ・自分の考えをまとめていく。

よかった手立て、参考になった手立て等（新聞とICTの活用に関して）
 ・新聞の情報を基にして、読み取る。
 ・読書の際に手話だけでなく、書いた文章を提示することで、他の生徒も理解しやすくなる。
 ・文章の前に図で表していることで、生徒の頭の中もスムーズな状態になってきたのかなと思いました。

感想
 ・先生の話に、同じように授業を受けても、難しく感じる内容でしたが、手話を工夫することで、理解できていたので、良かったです。

A ふりかえりシート ～授業提供者が記入～

気付いたこと、課題点	改善したところ
● 新聞記事の内容理解ができているか。（語句の意味理解も含め）生徒の自己判断に任せる部分が多かった。 ● 教材として用いた新聞記事の内容・分量が適切であったか。 ● 発表する・発表を聞くことが、互いの気付きや思考の深まりに寄与するものとなるような工夫が必要。 ● 文字情報モニター、書画カメラモニターと教師の立ち位置や見やすさ、話す速度等の検証が必要では。	・ 記事中の重要語は、語句の意味理解も含めて、生徒と教師で読み合わせしながら読解状況を確認する。 ・ 新聞記事を用いた学習では、記事選びが授業の成否を左右する。使用する新聞記事をさらに吟味する。 ・ 自分の考えを伝える（他者に理解してもらう）ことを意識付けることで、読みやすさやまとめやすさ、分かりやすく発表させたりする。 ・ その際、自分の記述した文章だけでなく、調べた情報の画像なども提示できるようにする。 ・ また、他者の発表に対する感想を述べることと併せて、質問や情報交換などをするところを取り入れていく。 ・ 生徒に確認し、最適な配置・速度とする。
☆ ワークシートを用いて情報・意見を文章にまとめる際、箇条書きの過程を経ること考えが整理される。 ☆ 新聞記事の内容と自分のつながりを考察させることで深い学びとなっている。 ☆ 新聞に載しお環境作りができているか？ ☆ 教師の指示や生徒が発表する際、音声や手話だけでなく、音声文字変換システムや書画カメラを用いて（情報保障して）いる。	

⑤ ②～④をグループ内で輪番で実施。

⑥ 各グループの実践例を全体へ報告（研修のまとめ）

3 実践の実際

(1) 幼稚部の例（年長）

話し合い活動の話題として新聞記事を活用。

目標「友達の話最後までよく聞いて、自分の意見を伝え、話し合うことができる。」

学習活動

○ 話し合い活動

- ・ ウミガメのレントゲン写真を見て、体内の丸い粒に気付く。
- ・ 丸い粒が何かを考える。
- ・ どこからきたのか。
- ・ どうやって除去するのか。
- ・ 友達の意見を聞いたり、自分の意見を伝えたりして話し合う。

幼稚部段階では話し合い等と言語活用の基礎を作っていく。ウミガメのレントゲン写真をきっかけに軽石漂着の話題について話し合うことができた。



(2) 小学部の例（6年）

自立活動の読解・要約課題として新聞記事を活用。

目標「興味のある記事を選び、その記事について読み深める。」（全体）

「語彙を増やし、記事の内容の中心を捉え、事柄や事例などとの繋がりを正しく把握する」（個人）

学習活動

- ・ 記事を読みながら分からない語句に印を付ける。
- ・ タブレットを使って意味を調べる。
- ・ 記事の内容をウェビングすることで、事柄の関係性等を整理する。
- ・ 記事の内容を要約する。

授業者が同じグループの高等部の授業を参観した際、ウェビングの様子を見て自身の授業にも取り入れた。



要約前のウェビング



(3) 中学部の例（2年）

国語科（古典・徒然草）の読解を深めるために新聞の形式を活用。

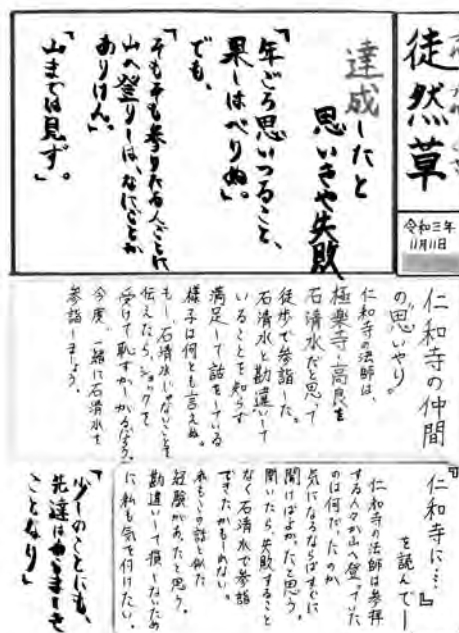
目標「仁和寺の内容を伝えるはがき新聞の下書きを書くことができる。」（全体）

「仁和寺の登場人物の言動を簡潔に伝える文章を書くことができる。」（個人）

学習活動

- ・ 本文の確認
 - ・ はがき新聞作成
- 手本参照，レイアウト案作成，
下書き作成，発表

新聞の構造（見出し等）を生かして新聞形式にまとめることで、理解度を高めることができた。



家庭科で衣服を選択・購入する際の考慮事項について、問題提起と理解を深める資料として新聞を活用。

②「自分の消費行動が社会に与える影響や、今後の購入時の配慮点について考えをまとめることができる。」

- ・ 新聞記事の内容を理解するのに必要な資料を収集する。
- ・ 収集した資料・情報をウェビング等の手法を用いて整理する。
- ・ 衣服を購入する際に考慮する点について自分の考えをまとめる。
- ・ 発表及び評価をする。

**新聞記事の問題
する考えを練り**

新聞記事の問題提起を元に資料を集め、それに対する考えを練り上げる活動は、言語能力や思考力UPに資するものである。



聴覚障害のある子供たちにとって、新聞を読み解くことは容易ではない。一方で、新学習指導要領では、知識や情報を精査し相互に関連付けながら思考する「深い学び」が示され、情報化社会の進展も留まることを知らない。今年度、幅広い発達の段階に応じてなされた新聞活用の実践は、「深い学び」の実現や情報化社会を生き抜く力を身に付けるための手掛かりとなり得るものであった。今後も障害特性に応じた実践を積み重ねていきたい。

鹿児島県新聞活用教育（N I E）推進協議会会則

1 9 9 5 年（平成 7 年）	4 月実施
1 9 9 8 年（平成 1 0 年）	5 月改定
2 0 0 4 年（平成 1 6 年）	5 月改定
2 0 1 6 年（平成 2 8 年）	5 月改定

第 1 条（名称）本会は鹿児島県新聞活用教育（N I E＝Newspaper In Education 教育に新聞を）推進協議会と称する。（略称・鹿児島県N I E推進協議会）

第 2 条（目的）本会は教育界と新聞界が協力、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して、教育内容を豊かにするとともに情報化社会における情報活用能力を高めて、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。

第 3 条（事業）本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- ①N I E実践研究会委嘱校、委嘱者の選定
- ②N I E実践研究委嘱校、委嘱者への研究補助
- ③N I Eに関する研究会等の開催および研究成果の紹介や普及
- ④その他、本会の目的達成上、必要と認めた事項

第 4 条）第 1 項（組織） 本会は次に掲げる委員で構成する。

- ①鹿児島県内の学識経験者
- ②鹿児島県の教育委員会関係者
- ③市町村教委、校長会、私学団体
- ④実践校代表
- ⑤在鹿の日本新聞協会加盟者代表（朝日、毎日、読売、西日本、日経、南日本、南海日日、共同通信、時事通信）、

第 2 項（任期） 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

第 6 条（役員）①本会には会長 1 名、副会長 3 名、監事 2 名を置く

- ②会長は協議会を代表し、会務を統括する。
- ③副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときはその職務を代行する
- ④監事は会計監査を行う。

第 7 条（運営） 1 項 本会は次期計画その他運営に関する重要な事項を決定するため、毎年 1 回定期総会を開くほか、事業状況報告などのための臨時会を開催する

2 項 総会は会長が招集し、その議長となる。

第8条（経費）本会の運営に関する経費は、参加する新聞・通信社の拠出金および個人、団体等からの補助金その他の収入をあてる。

第9条（事務局）本会事務局は南日本新聞社読者センターに置く。

第10条（事業年度）本会の事業年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終了するものとする。

第11条（補則）この会則に定めるもののほか本会に必要な事項は別に定める。

※付則 この会則は2016年（平成28年）4月から実施する。